

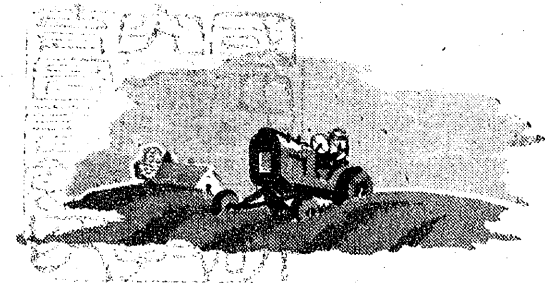
K250.3

1

7



社会科 7



世界諸地域の 自然と農牧生活

永野重史氏 寄贈

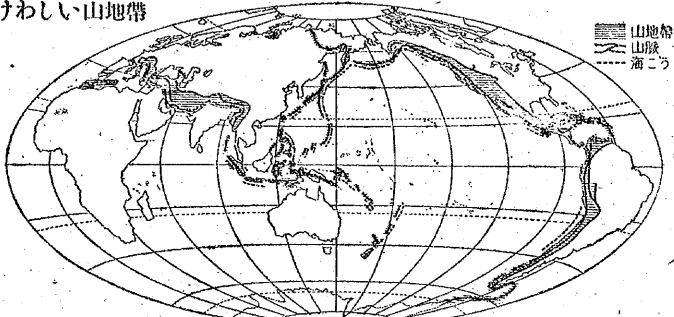
社 会 科 7

世界諸地域の自然と農牧生活

いろいろな世界地図 (その一)

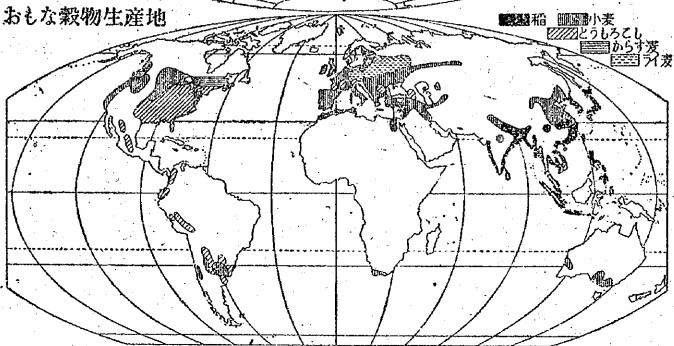
けわしい山地帯

だ円形図(正積)その一



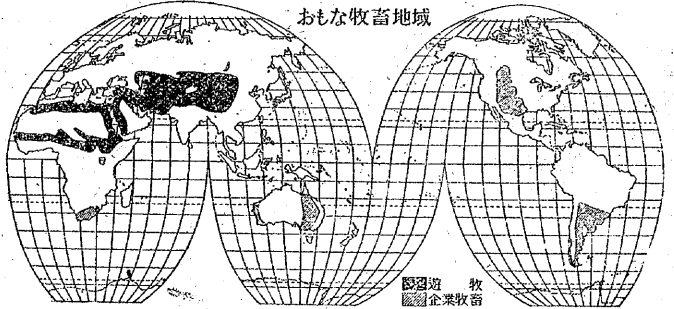
おもな穀物生産地

だ円形図(正積)その二



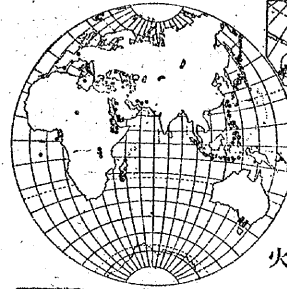
おもな牧畜地域

断裂図(正積)その一



いろいろな世界地図 (その二)

平射図

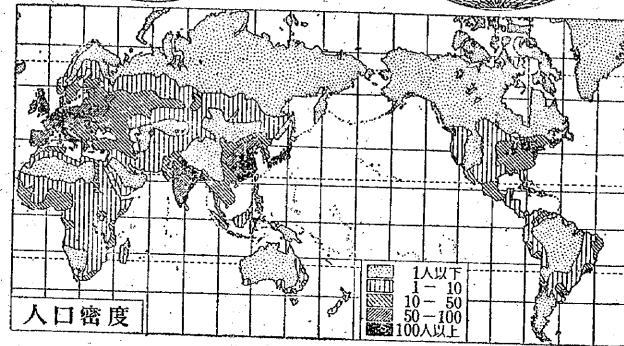


火山分布

直射図

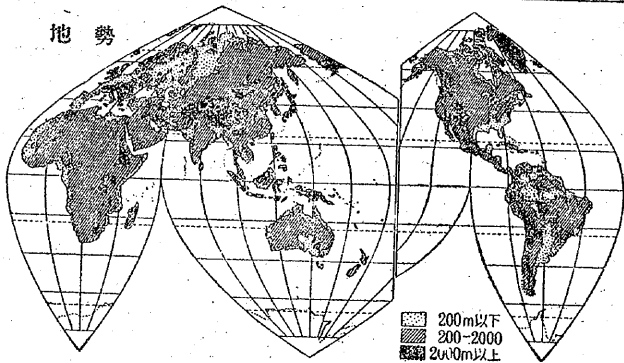


メルカトル図



地勢

断裂図(正積)その二



目 次

ま え が き	1
I 地勢と土地利用	5
II 気 候 と 生 活	10
III アジアの農牧生活	20
1. 人口の多い中華民国の主要部	22
2. 特産物に富む熱帯アジア	28
3. 泉地農業と遊牧	33
4. 新しい姿のシベリア	37
IV 食糧の大消費地ヨーロッパと未開拓地の広いアフリカ	39
1. 自然的條件に恵まれたヨーロッパと不利なアフリカ	40
2. 地中海性気候と農業	42
3. 商工業と農牧業	44
4. 寒い地方の農作物と黒土地帯の農業	48
5. アフリカの開拓	51
V アメリカの躍進	52
1. 自然の特色	53
2. 大規模な北アメリカの農業	55
3. 南アメリカの進出	62
VI 小麥と羊毛のオーストラリア	64
1. オーストラリアの発見と開拓	65
2. ニューゼーランドとハワイの土地利用	68
附録 世界 の 地 図	

まえがき

各州の面積と人口(昭和25年)

	面積 (100万平方キロ)	人口(10万)
アジア州	443098	11920
ヨーロッパ州	99134	5300
アフリカ州	298178	1606
北アメリカ州	243577	1823
南アメリカ州	177449	909
大洋州	89625	108
南極州	136130	0
計	1487191	21666

世界には、およそ22億の

人が住んで、その生活のもとを、おもに陸地に求めている。太古の人類は、一般に山野で狩猟を行い、その獲物によって生命を支えていた。そのうちに少しずつ野獣を飼いな

して、その畜産物で生活をたてることをおぼえたので、こんどは家畜を追い、水や草地を求めて、あちらこちらに移動するようになった。このような生活を長く続けた後、やがて人類は土地を耕作することを知りはじめた。そして人口が増加するにつれて、森林をきり拂い、荒地を開き、その他いろいろな努力をして、生産地の拡大や生産の増加をはかって来た。

けれども、すべての人類が、狩猟から遊牧へ、それから農耕へと、同じような経過で、同じ時代に移ったわけではない。事実、人類の大部分が、ずっと前から定住して農耕生活にはいつている今日でも、一部にはまだ狩猟を続けているものもあるし、また遊牧生活を営んでいるものも少なくない。

ところで人類がこれまでに耕地にすることができた土地の面積は、わずかに陸地全体(南極州を除く)の約15%であり、牧場として利用されている土地も、全陸地の40%に達しない。したがって将来の利用にゆだねられている土地は、まだ廣く残されていることがわかる。けれども、この中には、地勢や氣候の関係から、その開発が容易ではないものが多い。それ故、今後の開発に当っては、これまでよりもいっそう科学的に努力することが必要である。

人類が長い間かかって有用地化した地表の各地では、現在どんな農牧生活が営まれているであろうか。農業は、わが國にとって、昔から重要な産業の一つで、國土は山がちであるにもかかわらず、よく耕されている。しかし平野と山地とでは、地勢條件がいろいろと違う上に、土地の地勢により、あるいは位置による氣候の相違も著しい。そしてこのような違いに應じて、地方によって農作物の種類や耕作法に変化が見られる場合が少なくない。牧畜のありさまもいろいろで、火山のすそ野や台地が、廣く牧場として利用されているところがあるかと思うと、一方には、牧場らしいものが、ほとんど見られない地方も多い。

わが國の農牧業には、このように地方による違いもあるが、全体として見れば、全國どこへ行っても、低地には水田が作られ、斜面や台地の加にも、おもに食糧作物が栽培されている。また、牧畜は一般に、農家の副業として営まれている程度にすぎず、わが國の農業上、それほど重要な意味を持ってはいない。

農業といえば、どこの國でも、日本のように、米をはじめ、その他の食糧作物の栽培に、ほとんど全力を注いでいるものであろうか。わが國の農業のように、家畜を取り入れる程度が少なく、また牧畜自身も振わないのは、果たして外國でも同様であらうか。

わが國の農業ばかりを見ているわれわれは、ややもすると、わが國の農業様式が唯一の土地利用法であるような考えに陥りやすい。しかし、農業にもいろいろなやりかたがある。わが國の農牧業が、世界諸國に比べて、実は特殊な性格を持っていること、及び各國の農牧業にも、それぞれ特色があることは、第3ページの簡単な表からでも容易に判断されるであらう。

もともと農牧業は、各地の自然條件、特に地勢や氣候と深いつながりを持って営まれているものである。しかし同じような自然條件の土地でも、そこに住んでいる人々の文化や社会状態などの違いによって、

各國の農牧狀況 (1939年)

	耕地1万キロに 対する農業人口 (林業を含む)	人口100に対する頭数			
		牛	馬	豚	めん羊
日本	235	3	2	1	0.2
イギリス	39	19	2	9	57
フランス	37	37	6	17	24
ソ連	32	37	10	18	61
合衆國	8	53	8	45	42
カナダ	5	73	25	42	29
アルゼンチン	4	259	66	31	342
オーストラリア	4	187	25	17	1610

農牧業のやりかたもさまざまである。そこで廣く世界をながめて、各地域の自然條件や農牧業との関係、及び農牧生活の特色を理解しよう。それによってわれわれは、他の地域の人々から教えられる点も少なくないことであらう。

またわが國は、今後ますます多くの農産物や畜産物を外國に仰がなければならないことであらう。したがって、これらのものが諸外國でどのように生産されているか、どのようにしてわが國へ供給されるかというようなことは、直接われわれの生活に関係を持つ問題である。農牧生産の事情だけに限らず、われわれは、外國の人々がどんな生活を営んでいるのかについて、いろいろと知り、それによって世界の人々を理解し、たがいに力を合わせて生活して行きたいと思う。それは、今日では世界が狭くなって、一國が他國のことに無関心では立つて行くことができなくなっているからである。

この学習は、おもに次の4つのことがらに関連を持っている。

1. 世界諸地域の自然條件には、それぞれどんな特色があるか。
2. 人類は生産地の拡大や、生産の増大に向かって、どんな努力をして来たか。
3. 世界諸地域の人々は、どんな農牧生活を営んでいるか。
4. 農産物や畜産物の交易は、世界の人々をどのように結びつけて

いるか。

課題 (イ) 家畜を飼うようになる前の太古の人類は、どんな生活をしてきたかを、歴史その他の本によって調べる。世界にはどんな地域に、現在でも遊牧民が住んでいるであろうか。また、狩猟が、今日でもおもな生活手段である地方は、どのへんであろうか。

(ロ) わが國でも狩猟生活・遊牧生活・定住農業と移って来たのであろうか。また、わが國では、いつごろ、どのようにして農業が始まったのであろうか。

これらの問題について、組で討議すること。

【注】 この教科書の統計資料は、自然関係のものは理科年表（昭和22年）、各國經濟関係のものは主として日本國勢圖會（昭和18年）及び列國國勢要覽（昭和18年）による。

I 地勢と土地利用

郷土でも、地勢によって、土地の利用状態にはいろいろな相違が見られるであろう。世界の地勢は、地方によってずいぶん違っている。世界地図をながめればわかるように、高くけわしい山地がそびえているかと思うと、高原や丘陵地もあるし、大小の平野も方々にひろがっている。地勢は、このように地方によって人類の生活舞台にいろいろな変化を與えるが、これに関連して、世界では、土地を農牧地として利用しているありさまも、地方によってさまざまである。

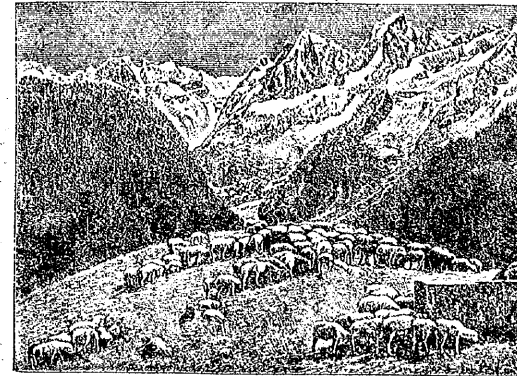
けわしい山地 山地にもいろいろな種類のものが區別されるが、世界で最もけわしくて長い山地帯としては、太平洋をとり巻くものと、アジアの南東部からヨーロッパの地中海方面へ続くものとに區別することができる。これらの山地帯が生まれるような大きな変動が行われたのは、地質時代から見れば新しいことであるが、今日、世界で有名な高い山脈は、大部分この中に含まれる。そして、これらの山脈にもそれぞれ特色がある。たとえば南アメリカのアンデスは、特に長いことで知られ、アジアの屋根といわれるバミール高原を中心として東西にひろがる山脈には、ヒマラヤをはじめとして、ことに高くてけわしいものが多い。世界には、このほかにどんな著しい山脈があり、また、どんな有名な山々がそびえているかを、めいめいの地図によって調べることとしよう。

けわしい山地は、自然の上から、人類の活動舞台として不利な点の多いことは容易に理解できるであろう。深いV字状の谷、あるいは狭い谷底平野は、人類の居住や交通に不便であり、人々は急な斜面までも耕して、ようやく生活を支えている。わが國土は山がちであるが、國民の努力によって、実によく耕されている。それでも、耕地面積は、

世界のおもな高山 (×印火山)

名 ま え	所 在	高 さ (m)	名 ま え	所 在	高 さ (m)
ア ジ ア 州			北アメリカ州		
エヴェレスト	ヒマラヤ山脈	8882	マッキンレー	アラスカ	6187
K2(ゴドウィン オーステン)	カラコルム山脈	8611	ローガン	〃	6050
カンチェンジュ ンガ	ヒマラヤ山脈	8603	×オリサバ	メキシコ	5658
マカール	〃	8489	セントエリア	アラスカ	5494
ドーラギリ	〃	8167	×ボボカテペ トル	メキシコ	5424
ナンガパルバ ット	〃	8114	キングカナ グ	グアタマラ	5221
ナンダデビ	〃	7817	ホイットニー	カスケード山脈	4420
ハンテングリ	天山山脈	6990	南アメリカ州		
デマベン ド	エルブールズ山 脈	5670	アコンカグ ャ	アンデス山脈	7035
エルブールズ	コーカサス山脈	5630	メルセダリ オ	〃	6802
ヨーロッパ州			×イリマニ	〃	6459
モンブラン	アルプス山脈	4810	×チンボラ ゾ	〃	6248
モンテロー ザ	〃	4638	×コトバク シ	〃	5978
マッターホル ン	〃	4505	大洋州		
フィンスター ルホルン	〃	4275	チャールス イス	ニューギニア	5000
ユングフラウ	〃	4166	×マウナ ケア	ハワイ	4210
アフリカ州			×マウナ ロア	〃	4168
×キリマ ンジャ ロ	東アフリカ	5969	南極州		
×ケニア	〃	5194	×マルカム		4600
×ルウェン ゾリ	〃	5070	×エレブ ス		3770

国土の約16%にしか当たらない。



アルプス山地の牧畜

さえも見られることから、居住地の高さにも限界があることに気がつく。このように、高くけわしい山地は、農業上不利なことが少なくないが、牧場として大いに利用されている例は方々にある。アルプス山地の高いところに、羊や牛の群が点々としている美しい写真や絵を見たことがあるであろう。これは夏の間だけ、山地を牧場として利用している風景の一例である。

大きい高原 わが國にも高原とよばれているところもあるが、その規模は、世界的なものに比べれば問題にならない。世界には、幾筋にも分かれた山脈に抱かれて、大きな高原が発達している例が少なくない。南部アジアには、このようなものがいくつもあるが、ことにチベット高原は、世界最高のもので、平均 4000—5000 メートルの高さを示す。ここは人口もわずかで、住民は主として遊牧生活を営んでいる。アジアには、このほかに、蒙古・イランなどの高原があるし、南北アメリカにも高くて広い高原が発達している。またアフリカ大陸からア

山地では、地勢の上から、わずかな耕地しか求められないばかりではない。山も高くなれば上の方には樹木がなくなり、一年じゅう雪がとけなかったり、時には、氷河が流れている場合

ラビア半島にかけての土地は、大部分が大きな高原である。

高原といっても、その表面はかならずしも平らではなくて、たくさんの山地や深い谷に分かれている場合が普通である。それに、特別な場合を除いては、気候的にもあまり恵まれていない。そこで、一般には、牧場として利用されている程度にすぎない。

火山と低い山地 地表には、また、たくさんの火山が噴出している。これらの火山は、世界のけわしい山地帯に多く見出だされるから、世界の火山帯とこの山地帯とは、深い関係を持つことが考えられよう。火山のすそ野の草地は、牧場として利用されているのが普通であるが、高温多雨な南部アジアの島々では、ここが重要な農耕地となっている。

低い山地は、一般に長く連続しないで、いくつかの山地に分かれているのが普通である。そして、長い間風雨に侵されて、なだらかになっているものが多い。谷も広いので、不利な気候の地方でない限り、耕地や牧場もよく発達している。しかし、わが國の一般の山地のように、高さはそれほどでもないのに、けわしい例もあって、山地生成の歴史は、世界の地域によっていろいろであることを示している。

平野 人類の大部分は平野に住んでいる。低くて傾斜のゆるやかなことを特色とする平野は、いろいろな点から見て、人類の生活にどんなに有利であるかは容易に理解できよう。中國の黄河や揚子江沿岸の平野、インドのヒンドスタン平野などは、アジアでも巨大な農業人口を支えている代表であり、ナイル川三角州は世界で最も古くから開けた農業地の一つである。諸州の中で平野の占める面積の割合が最も大きいヨーロッパでは、各種の経済的活動がかっぱつに営まれているし、合衆國の中央低地、南アメリカのラプラタ川流域、オーストラリア南東部の平野などは、いずれも世界で重要な農牧業地となっている。

以上の諸平野は、沖積地も廣く、土地も肥えているが、北部ヨーロッパや北アメリカ北部の平野は、氣候が寒かった地質時代に、廣く氷

世界のおもな河川

名 ま え	流域(1000 面積 km ²)	長 さ (km)	名 ま え	流域(1000 面積 km ²)	長 さ (km)
ア ジ ア 州			ア フ リ カ 州		
オビ	2947.9	5200	コンゴ	3690.0	4200
エニセイ	2591.5	5200	ナイル	3007.0	5760
レナ	2383.7	4600	ニジェール	2092.0	4160
黒龍江	2051.5	4480	ザンベジ	1330.0	2660
揚子江	1775.6	5200	オレンジ	1020.0	1860
ガンジス	1730.0	3000	北アメリカ州		
ブラマプトラ	980.0	4100	ミシシッピ	3248.0	6530
黄河	960.0	3180	マッケンジー	1660.0	3780
インダス	765.0	2000	セント	1248.0	3800
エウフラテス			ロレンス	1080.0	2400
ヨーロッパ州			ウィニペグ		
ヴォルガ	1420.0	3570	南アメリカ州		
ドナウ	817.0	2850	アマゾン	7050.0	6200
ドニエプル	510.5	2150	ラプラタ	3104.0	4700
ドイン	420.8	1860	オリノコ	944.0	2220
ドヴィナ	362.3	1780	大 洋 州		
ベチョラ	320.3	1580	マレー	1080.0	1100
ライオン	224.4	1326	ダーリング		994
ウラル	219.9	2380			
ヴィスツラ	198.3	1125			
エルベ	147.7	1154			

河におおわれた。現在では、その時代の氷河の残した砂や小石の丘陵、あるいは、無数の湖が方々に存在して、土地はやせている。そのほか、世界には、廣大な面積を占めながら、わずかな人口しか支えていない平野もある。高温多雨な赤道附近の平野、寒冷な高緯度地方の平野、大陸内部の雨の少ない盆地平野などがそれである。これらにはどんな例があるかを、地図によってめいめいで調べてみよう。このように、同じ平野でも、その氣候や地味によって、人類に役立つ程度にはいろいろな差が認められる。

課題 (イ) 郷土附近の平野の人口密度(1方キロ)を調べ、また近くの山がちな地方についても同様な調査をすること。そして両者の密度がその

ように違うわけを、いろいろな方面から調べること。

(ロ) 郷土の土地利用の状態は、地勢によってどのように違うかを調べて、その結果を報告すること。

(ハ) チベット高原その他の大高原に住む人々の生活状態について書いた本があったならば、それを読み、その話を短くまとめて報告すること。

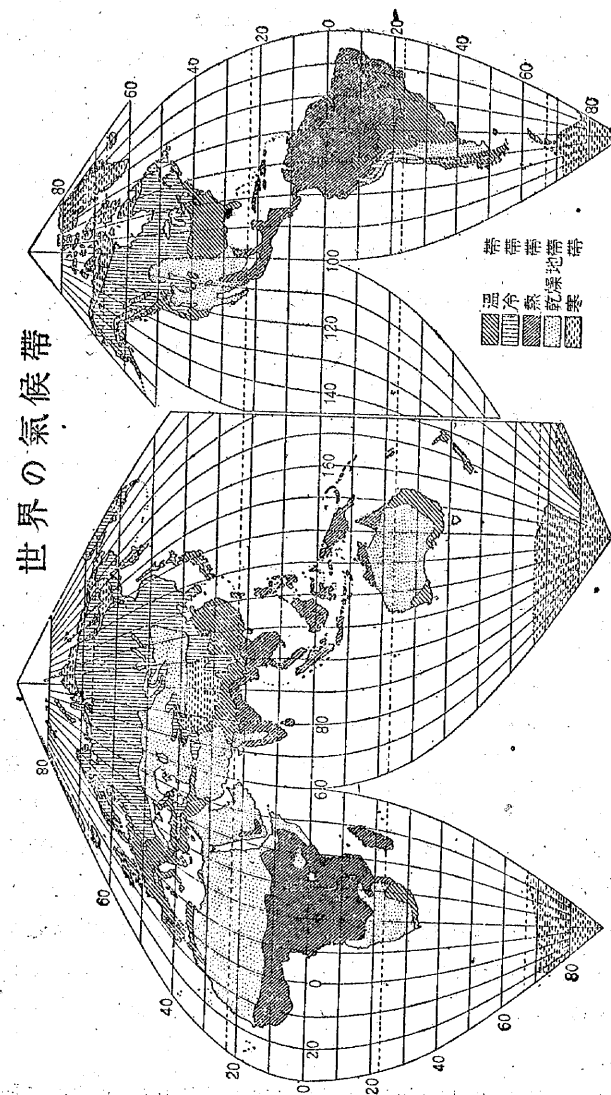
(ニ) この学習を通じて出会った新しいことばの表を作り、その意味をノートに書くこと。また、今後の学習で新しいことばに出会うごとに、それを書き加えること。そして、それらの使用法や書きかたを練習すること。

II 気候と生活

わが国各地の気温・雨量・風などの状態を調べると、これらには、地方によっていろいろな相違が見出だされる。各自の住んでいる県のようなせまい範囲内でも、よく調べると、土地によって気候が違ふことがわかるであろう。しかし、日本を全体として見ると、いわゆる温帯に属して、四季の変化がはっきりとしている。ところが世界には、わが国とはずいぶん違った気候の土地がある。例えば高温多雨な赤道附近、年じゅう雪や氷にとざされている極地、あるいは、一年を通じて雨の少ない地方などであって、これらの土地では、その気候に関連して、住民の産業や日常生活にもさまざまな違いがある。

気候帯 気候帯といえば、われわれはすぐに、緯度によって境された熱帯・温帯・寒帯を思い出す。どんな緯度で、それらは、どのような意味を持つものであろうか。各自の地図によって調べてみることにしよう。

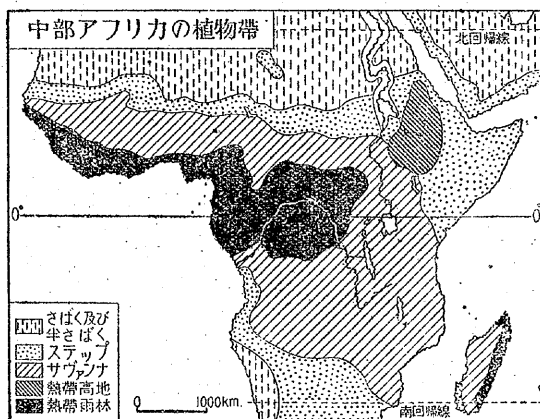
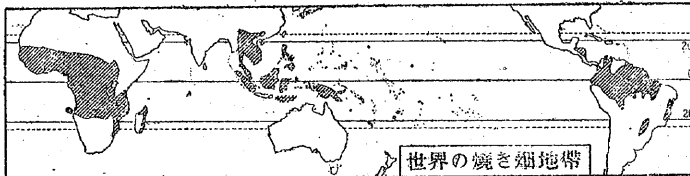
ところで、地表の気候は複雑で、同一緯度の土地でも、はなはだ違



う場合が多い。そこで、人類の生活の上からは、世界の気候帯を次のように分ける方が便利である。

熱帯 年中高温で冬のない土地である。そう聞くと、このような常夏の土地は、どんなにか暑いことだろうと想像される。ところが事實は、わが國のま夏の暑さといふて違わないのであって、それほどわが國の夏は、大部分の地方が熱帶的なのである。

熱帯では雨量は一般に多く、ことに赤道附近では年中多雨で、アマゾン川・コンゴ川の流域や東インド諸島では、熱帯雨林が廣く土地をおおっている。いろいろな種類の樹木が密に繁茂して、晝間でも薄暗い熱帯雨林の土地は、人類の生活にとって有利ではない。ここは人口も少なく、住民は森林を焼いて、タロイも・落花生その他を栽培し、



3—4 年後にまた別なところへ移動するのが普通である。しかし、南部アジアには土地の開拓が進んで、ゴム、その他の熱帯産物の世界的供給地と

なっているところがあり、熱帯開拓の將來にかがやかしい希望を與えている。

赤道から離れると、暑いことはあい変わらずであっても、雨季と乾季の区別がついて来て、森林もまばらとなる。インドやインドシナ半島のこのような気候のところでは、土地はよく耕されて、多くの人口を支えている。しかし、他の大陸では、土地の開拓程度はまちまちである。

われわれに外國の動物としておなじみの、ライオン・ぞう・きりんなどの故郷もこの気候の土地で、そこは樹木もまばらで、丈の高い草におおわれている。アフリカでは、このような草原をサヴァナと呼

熱帯各地気温(°C)・雨量(降水量,mm)表

地名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年
シンガポール 高さ 2.0m 緯度 1°18'N	気温 25.4 雨量 192	25.9 113	26.1 195	26.8 166	27.2 220	27.1 204	27.3 129	27.1 139	26.9 185	26.5 173	25.9 233	25.3 205	26.4 2155
バタビア 高さ 8.0m 緯度 6°11'S	気温 25.7 雨量 308	25.6 312	26.0 200	26.5 131	26.6 103	26.3 87	26.1 60	26.3 40	26.6 69	26.7 112	26.4 137	25.9 212	26.2 1770
サイゴン 高さ 11.0m 緯度 10°47'N	気温 25.8 雨量 16	26.7 3	27.8 13	28.9 42	28.0 220	27.2 331	26.7 314	27.0 269	26.6 336	26.5 269	26.3 115	25.5 56	26.9 1984
ボンベ 高さ 11.3m 緯度 18°54'N	気温 23.3 雨量 2	23.6 1	26.2 1	27.6 2	29.1 18	27.0 469	27.2 639	26.7 360	26.7 275	27.2 47	26.1 10	24.6 2	26.3 1826
バンドン 高さ 730.0m 緯度 6°55'S	気温 22.0 雨量 192	21.9 190	22.0 234	22.3 234	22.3 133	22.0 94	21.9 64	22.0 56	22.4 89	22.5 168	22.3 234	22.1 220	22.1 1908
マナオス 高さ 44.9m 緯度 3°8'S	気温 26.8 雨量 242	26.7 223	26.6 232	26.6 234	26.6 179	26.8 117	27.0 67	27.7 31	28.1 56	28.1 117	27.9 129	26.9 217	27.2 1844
キト 高さ 2850.0m 緯度 0°14'S	気温 12.6 雨量 106	12.5 109	12.5 132	12.5 188	12.6 127	12.6 39	12.5 22	12.6 38	12.7 76	12.6 93	12.5 96	12.6 97	12.6 1123
ホノルル 高さ 11.6m 緯度 21°19'N	気温 21.9 雨量 101	21.9 58	22.1 86	22.7 52	23.8 26	24.7 19	25.3 20	25.7 26	25.6 38	25.1 43	23.8 62	22.8 107	23.8 638

んでいるが、土地の開拓は行われていない。また、コーヒーの産で有名なブラジル高原も、ようやくその一部が耕されている程度にすぎない。

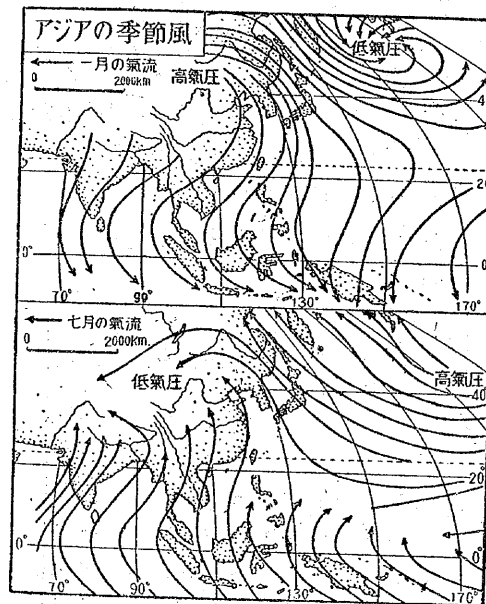
年中高温多湿な熱帯の低地は、なんといっても健康によくない。低緯度地方にも、どこか住みよいところがないものであろうか。われわれは、高いところへのぼるほど、気温がくだることを知っている。そこで、赤道附近でありながら、高原の上が永久の春の樂園となつているところがあるのも不思議ではない。特にメキシコからアンデス山地北部にかけては、低地よりも高原上に多くの人々が住んでいる。

寒帯 地表には、熱帯と反対に、夏も寒いために樹木が生育できない地域がある。これが寒帯である。地下は年中凍結しているが、夏の間だけ表面がとけて草原となるツンドラ地方は、わずかながら人類の生活を許している。しかし、グリーンランド内部や南極大陸は、厚い氷でおおわれて、生物はほとんど生存していない。このように、寒帯は、人類の活動には最も恵まれないところである。しかし、学術上や世界の交通・通信の上から、この地域の調査はいろいろな意味を持つので、以前からたびたび大規模な探検が行われて来た。それにもかかわらず、今日でもまだ不明な点が少なからず残されている。最近の探検としては、どんな例があったであろうか。

地名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年
スピッツベルゲン	高さ 10.6m	気温 -15.3	-16.4	-18.7	-13.3	-4.6	2.1	5.6	4.8	0.2	-6.1	-11.0	-12.9	-7.1
緯度78°13'N	雨量	35	40	28	26	13	10	16	22	26	28	26	38	308
ウペルニツィグ	高さ 19.2m	気温 -19.7	-21.1	-19.4	-13.1	-2.8	2.3	5.2	5.4	1.5	-3.8	-3.6	-14.2	-7.4
緯度72°47'N	雨量	9	8	11	16	18	16	24	23	28	32	31	16	232
ノーム	高さ 5.6m	気温 -15.8	-15.0	-13.0	-7.6	1.1	7.4	9.9	9.7	5.3	-1.6	-9.1	-13.7	-3.6
緯度64°30'N	雨量	30	21	22	16	27	31	66	83	71	41	25	30	462

寒帯の居住者の代表は、エスキモーである。その分布範囲は広いが、人口は3万ぐらいにすぎない。石と氷で築いた冬の家の生活、小さな皮舟をあやつって行く漁業、あざらしの皮で作ったテントを持ち、そりに乗って獲物を求めて出かける長距離旅行などの話は、すいぶんおもしろい。しかし、それもみな、厳寒不毛の土地に適應した特色のある生活様式である。

温帯 わが國は温帯に位する。四季の区別が明らかで、夏は高温となるが冬の寒さはあまりきびしくない。雨量は相当にあつて、森林もよく繁茂する。温帯はなんといっても人類の活動に最も恵まれた地域である。しかし、わが國附近とヨーロッパとは、氣候状態に差があるように、同じ温帯でも、地方によってその氣候にはいろいろな特色が見られる。



アジア季節風
——アジア大陸の東側に位するわが國の附近は、アジア季節風帯に属する。われわれがすでに知っているように、夏は太平洋方面から湿った風が吹き、冬は反対に大陸内部からの乾燥した風が優勢となる。アジアでは、季節風の影響をうける範囲が廣

温帯各地気温(C)・雨量(降水量mm)表

地名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年
東京														
高さ 5.8m	気温	3.1	3.8	7.0	12.6	16.8	20.6	24.4	25.7	22.1	16.1	10.7	5.4	14.0
緯度35°41'N	雨量	50	74	109	134	150	169	141	155	238	196	98	57	1571
上海														
高さ 11.7m	気温	3.5	4.4	8.4	13.7	19.0	23.1	27.5	27.6	23.3	18.1	12.4	6.8	15.7
緯度31°15'N	雨量	48	68	68	90	99	182	131	138	177	42	49	48	1140
廣東														
高さ 8.8m	気温	13.6	13.7	17.3	21.7	26.5	27.8	28.9	29.1	27.9	23.8	19.9	16.5	22.2
緯度 23°6'N	雨量	45	73	97	159	260	265	272	254	136	58	45	37	1701
ワシントン														
高さ 34.1m	気温	1.8	1.8	6.9	12.3	18.0	22.3	25.1	23.8	20.8	14.3	8.1	2.7	13.2
緯度38°54'N	雨量	86	68	87	87	83	107	111	114	94	70	57	83	1047
フェノスアイレス														
高さ 25.0m	気温	23.6	23.3	20.9	16.9	12.6	9.0	8.7	10.8	13.3	15.5	18.9	22.3	16.3
緯度 34°36'S	雨量	97	80	84	81	76	38	25	40	76	56	101	103	857
ベルゲン														
高さ 44.4m	気温	1.9	1.7	2.8	5.6	9.3	12.2	14.4	13.7	11.2	7.5	4.3	2.6	7.3
緯度60°24'N	雨量	227	160	128	111	100	107	113	187	202	230	200	197	1962
ロンドン														
高さ 10.4m	気温	4.3	4.6	6.0	8.4	12.0	15.1	17.0	16.5	14.0	10.1	6.6	4.8	10.0
緯度51°28'N	雨量	48	40	40	45	46	54	65	57	54	65	58	57	629
パリ														
高さ 50.3m	気温	3.8	4.2	6.6	9.6	14.0	17.0	19.0	18.4	15.1	10.7	5.9	4.5	10.7
緯度48°49'N	雨量	46	37	44	47	57	54	69	57	45	63	56	57	630
アテネ														
高さ 107.1m	気温	9.5	9.3	11.5	15.3	19.5	24.0	27.1	27.0	23.6	19.0	14.7	11.1	17.6
緯度37°58'N	雨量	53	41	30	20	22	16	2	4	16	42	65	70	379
ロスアンジェルス														
高さ 103.0m	気温	13.4	13.9	14.9	15.7	16.8	19.0	21.3	21.6	20.7	19.0	17.2	14.3	17.3
緯度 34°3'N	雨量	85	75	62	24	11	2	0	0	6	14	29	58	360

大で、温帯のみならず、熱帯や冷帯にまで及んでいる。高温な夏には、低気圧がしばしばおとすれて、多量の雨を降らせる。湿気が多いので、むし暑く感ずるが、この季節を利用して、わが國をはじめ、諸地方の低地では米作が行われ、多くの人口を養っている。わが國や中國方面では、夏の季節風は弱い、インド洋方面は、夏の強い季節風によって海の荒れることが多く、この風をうけるヒマラヤのふもとの地方は、世界的な多雨地となっている。

冬は一般に乾季となるが、この時の風は速度も大きく、また寒冷である。したがって、われわれの身体には、相当に寒く感ずる。しかし、特別な地方を除いては、冬も農耕ができる。

わが國とやや似た温帯氣候の土地は、南北アメリカやオーストラリアの東側にも横たわっている。しかし、ここの季節風は、アジアほどはっきりしてはいないし、雨量も多くない。そして土地の自然・開拓状態・住民の生活などは、アジアの場合とはかなり異なっている。ここでは、一般に大規模な畑作農業が行われて、食糧や原料の世界的供給地をなしてをり、企業的牧畜も盛んである。

ヨーロッパ——同じく温帯でも、イギリスやフランスの氣候はわが國に比べると、はるかに温和であるとの話を聞いたことがあるであろう。西部及び中部ヨーロッパでは、大西洋からもたらされる暖流の影響によって、冬も暖かく、気温の年変化の少ない海洋性氣候をあらわす。そして雨量も、一年を通じておおむね平均している。この地方では、土地はよく開拓され、家畜の飼育も盛んで、高度の農牧生活が営まれている。これに対して、南部ヨーロッパは、夏は乾燥して暑く、雨は冬に多く降る地中海性氣候をあらわす。そしてここでは、この氣候に適した特色のある農村風景が見られる。

冷帯 シベリアやカナダの風景写真の中には、針葉樹林が地表を一面におおっている状態をあらわしたものがある。これが冷帯の風景の

特色で、ここは、寒帯と温帯との中間の気候を示す地域である。冬はなほだ低温となるが、夏は相当気温がのぼる。したがって気温の年変化が大きい大陸性気候を示す。そして、この冬と夏の中間の季節ははっきりせず、短い夏と寒くて長い冬とが交代する。ここでは、農耕は困難で、住民の生活は主として森林に依存している。この森林の中には毛皮獣がすみ、その毛皮は貴重な貿易品となる。また北部ヨーロッパやカナダでは、パルプ工業が盛んである。

温帯に近づくと、農業も可能となる。ことに乾燥地帯への移り変わりの地方に当たって、肥えた土じょう地帯が横たわっているところがある。そしてここが世界的農耕地となっている場合が少なくない。ソ連や北アメリカでは、このような地方に最も大きな農場が開けている。

地名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年
ヴェルホヤン スク	高さ100.0m	気温-48.4	-42.9	-29.6	-12.5	2.0	13.6	15.9	11.1	2.2	-13.9	-35.7	-46.1	-15.4
緯度67°33'N	雨量	4	5	3	3	8	18	23	24	13	12	8	3	125
イルクーツク	高さ467.0m	気温-20.5	-17.3	-9.4	0.6	8.7	14.8	17.5	15.3	8.3	0.0	-11.2	-20.1	-1.1
緯度52°16'N	雨量	9	8	6	17	28	65	85	88	43	18	17	17	402
モスクワ	高さ165.7m	気温-11.1	-9.8	-5.0	3.2	11.0	15.8	18.3	16.4	10.5	4.0	-2.8	-8.2	3.5
緯度55°50'N	雨量	28	23	24	35	54	61	87	71	48	68	43	32	573
ウィニペグ	高さ232.0m	気温-19.9	-17.7	-9.4	3.2	11.1	16.8	19.1	17.7	12.1	4.8	-3.7	-14.6	1.4
緯度49°53'N	雨量	23	19	30	36	51	79	79	55	56	35	27	24	514
長春	高さ215.7m	気温-16.9	-12.6	-4.2	6.5	14.5	20.1	23.5	21.9	15.0	6.7	-4.2	-13.7	4.7
緯度43°55'N	雨量	6	6	10	22	55	22	178	138	57	39	17	7	661
陽曲	高さ832.0m	気温-7.8	-2.5	4.6	12.1	18.8	22.8	24.8	23.1	18.0	10.2	2.3	-3.4	10.3
緯度37°41'N	雨量	6	3	12	15	24	44	107	94	51	17	5	5	383

乾燥地帯 見渡す限り、草原やさばくがひろがっている土地である。ここでは、一年じゅう雨量が少ないために、森林が育たない。このような地域としては、アジアの内部から北部アフリカへかけてのものが最

も廣大であるが、北アメリカやオーストラリアにも廣い乾燥地帯が見出される。

乾燥地帯は、気温の点ではあまり不利ではないので、人類の生活には、水の有無が最も重要な意味を持つこととなる。人々は、早くから川の沿岸や水の得られるオアシス(泉地)に集まってかんがい(灌漑)を行い、農耕に従事して来た。世界の古代文化が、多く乾燥地帯の川の沿岸に発しているのも興味深いことである。現在では、大規模なかんがい工事によって、不毛の土地を耕地に化する努力が方々で行われている。

地名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年
ウランバートル	高さ1158.0m	気温-24.5	-20.1	-9.4	2.4	9.3	15.9	19.1	15.5	8.9	-1.4	-12.4	-24.0	1.7
緯度48°30'N	雨量	1	1	3	2	11	25	34	72	24	9	6	3	191
バグダード	高さ32.3m	気温8.8	11.4	16.2	21.4	28.0	32.2	34.4	34.3	31.1	24.9	17.9	11.5	22.7
緯度33°21'N	雨量	33	25	24	13	4	0	0	0	0	3	14	24	140
イキケ	高さ9.0m	気温21.3	21.9	20.4	18.8	17.4	16.4	16.7	15.9	16.5	17.6	19.3	20.4	18.6
緯度20°12'S	雨量	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2

水が容易に得られないさばくでは、人類の居住は困難である。世界で有名なさばくとしては、どんなものがあるであろうか。地図で調べてみよう。

このようなさばくの外側をステップ(草原)がとり巻いており、ここは自然の牧場である。アジアからアフリカへかけての草原は、古くから遊牧民の天地をなして来た。遊牧民の生活はわれわれとはずいぶん異なっているが、それもこの自然に適應して営まれている生活の一種様式である。これに対して、アメリカやオーストラリアの草原は、世界的に重要な企業的牧場となっている。

課題(1) 各地の気温・雨量表によって、それぞれの土地の気候の特色

を調べること。

(ロ) 郷土の氣候が日常生活にとって有利な点、不利な点について討議すること。

(ハ) 郷土では山地と平野とでは、人々の生活にどんな違いが見られるか。その違いを地勢・氣候・歴史その他の点から説明すること。

(ニ) 極地方やさばくの探検家が耐え忍んだ苦しい生活について書いた本を読み、その話を組ですること。

(ホ) 世界の廣い熱帯雨林・さばく・ステップなどを、略地図の上でそれぞれ適当な色にぬり分けること。

(ヘ) 熱帯の原住民、極地のエスキモー、草原の遊牧民などの生活について書いた本を読み、その話を組ですること。

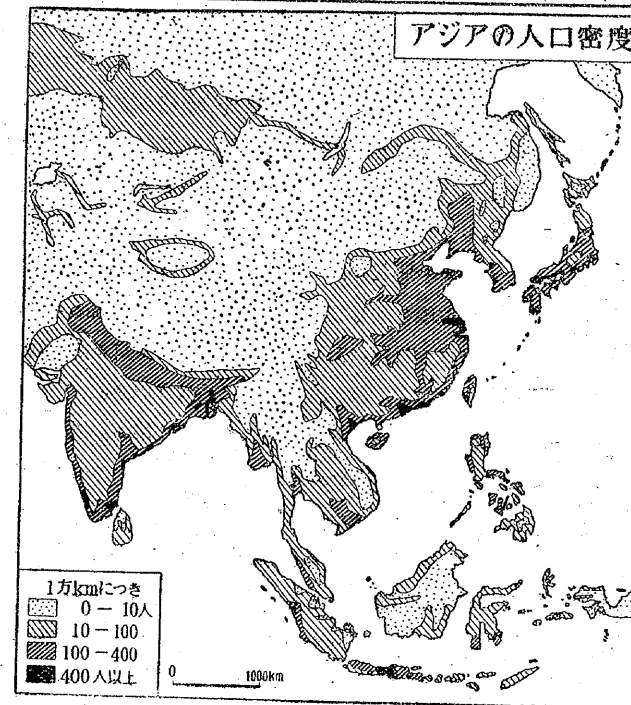
III アジアの農牧生活

アジアの地図をながめよう。世界最大の州であるアジアは、その地勢もはなはだ複雑である。アジア州の輪郭の特色として、まず気がつくことは、大陸部の東部から南東部にかけ、多くの半島が突出し、また、せまい海をへだてて、弓形に並んだ多数の島々が横たわっていることである。これらの島々は、山がちで火山も多く、平野に乏しい。ところで、アジア州全体としての高さの上からは、他の州に比べて、どんな特色が見られるであろうか。第21ページの表によって調べてみよう。また高い山地や高原はどのような分布をしているか、盆地や平野は、どこにどのように横たわっているかを、地図によって調べることにしよう。

アジアの人口密度図によれば、人口の大部分がアジア季節風帯の諸平野に集中していることに気がつく。ここは、アジアで最も重要な農業地であるから、この事実からも、いかにアジア住民の生活が、農業

各州の高さの表

高さ(m)	アジア	ヨーロッパ	アフリカ	北アメリカ	南アメリカ	オーストラリア	南極州	全陸地
0 以下	1.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
0—200	23.5	54.5	9.7	29.9	38.2	39.3	6.4	24.8
200—500	21.2	21.2	38.9	30.7	29.8	41.6	2.8	26.8
500—1000	23.7	15.2	28.2	12.0	19.2	16.9	5.0	19.4
1000—2000	18.1	5.1	19.5	16.6	5.6	2.2	22.0	15.2
2000—3000	5.2	2.0	2.7	9.1	2.2	0.0	37.6	7.5
3000—4000	2.0	0.0	1.0	1.7	2.8	0.0	26.2	3.9
4000—5000	4.1	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	1.5
5000 以上	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
平均の高さ(m)	960	340	750	720	590	340	2200	875



と深く結びついているかに思いあたるであろう。それでは、ここで、どんな農業生活が営まれているであろうか。農業に対して、アジアの牧畜は、どこでどのように行われているであろうか。

1. 人口の多い中華民国の主要部

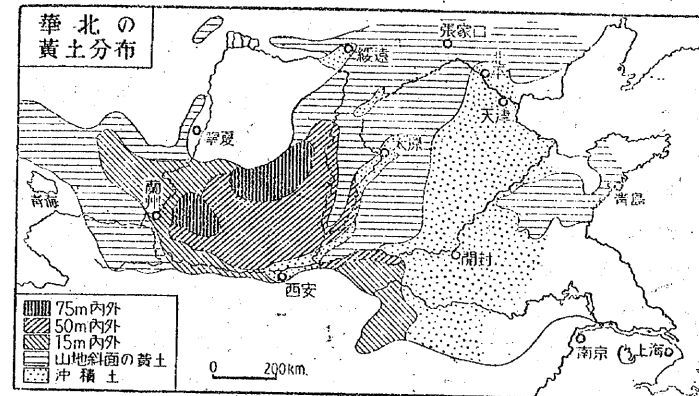
人口4億をこえる中国の住民は、その80%が農民で、大部分が中国本部に住む。人口密度図を見れば明らかなように、どの平野も人口がすいぶん多い。それで農家1戸当たりの耕地は小さいが、農民はよく働き、食糧生産に主力を注いでいる。しかし、古い農業国だけに、最近はいろいろな農村問題が起っている。

華北平野 古くは中原とよばれた廣い華北平野は、早くから開けた農業地である。ここはおもに黄河の運んだ、どろ土からなっていて、極めて低平なことを特色とする。アジア季節風帯の端の方に位するので、わが國のように豊かな雨量がない関係から、稲作には恵まれていない。しかし、夏は高温となり、土地は肥えているので、小麦・あわ・だいず・こうりゃん・とうもろこし・綿などがよくみのる。農民は、あわ・こうりゃん・小麦を常食とし、平野の70%はこまかに耕作されて、中国の重要な農業地をなしている。しかし、冬は低温となるので、二毛作がほとんど許されないことは欠点である。人口が多いので、食糧を他へ出す余力は少なく、おもに自家用に消費される。

冬は極めて乾燥し、雨は夏の短日月の間に集中して降る。この雨量や雨の降りかたは、年によってすいぶん違うし、かんがいや排水の施設も十分でないので、ひでりや大水による凶作の危険が多い。しかも農民の生活は、平常からあまり豊かでないので、凶作の年には、しばしばきんが起る。特に黄河のはんらんと河道の変遷とによって、古來どんなに人々が苦しめられて来たか、はかり知れないくらいである。中国の太古の傳説には 治水に関するものが多く、それらによって、

華北の政治には治水が極めてたいせつであることや、それには政府の力を必要とすることなどが伝えられている。

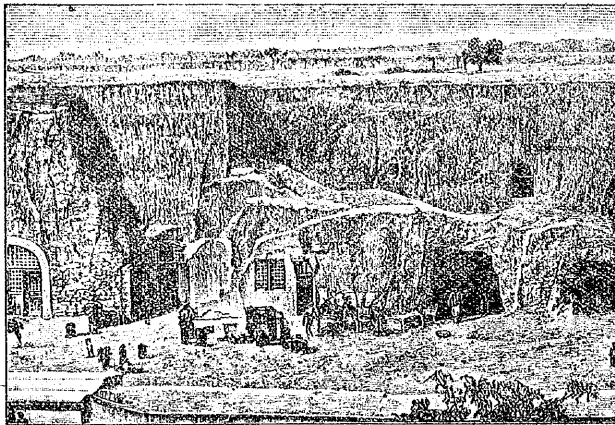
・黄土、黄河と文化 平野西部の山西から陝西・甘肅方面へかけての



山ろくや、丘陵地には、黄土とよばれる黄かつ色の土が積もっていて、肥えた土じょうを作り、その表面には、階段耕作がよく発達している。ここは、夏の雨さえ十分にあれば豊作となるが、例年の雨は不足がちで、農民の生活も一般に豊かとはいえない。この地方には、現在でも、黄土層のげけに穴を掘って、穴居を営んでいるものがあり、古代の人類の居住様式をしるばせる。事実、中国の古い文化の発達、この黄土地帯及び黄河と深く結びついている。

伝えられるところによれば、漢民族の祖先は、古く北西方から黄土地帯に移って来た。そしてB.C. 30世紀ごろからは、黄河中流地方に定住生活を営むようになった。そこでは、古くから文化が開け、人々は家畜を飼い、農耕や養蚕も行った。

それから引き続いて中原の開拓が進み、その後長い間、この地方は中国文化の中心地域となった。そして、ここを舞台として、多くの國が興ったり亡びたりした。



黄土地帯の穴居

この地方の中心都市は、古い歴史を持つ北平（北京）であるが、このほかに、西安（長安）・河南（洛陽）・開封などの歴史的都市がある。中でも長安は、唐の首府が置かれた当時は、世界的大都市であった。

開拓前線の拡大 このように黄河流域は、中國文化の発達の上から重要な意味をもっているが、3世紀ごろから、この文化は揚子江流域にひろまった。そして時代がたつにつれて、奥地の四川や南方の廣東・福建方面や、南西の廣西・貴州・雲南方面にも、開拓の歩が進められて行った。

17世紀ごろからは、河北・山東方面から、蒙古高原の端のあたりや、東北地方（満州）へ移る農民が次第に多くなった。そして廣い平野を持つ満州は、新しく開かれた重要な農業地と化した。

満州（中國東北地方） 満州の作物は華北と似ているが、だいずの産は世界に有名である。最初に開かれた遼河流域の南満平野には、農民

の常食であるこうりゃんが最も多く栽培されているが、松花江流域の北満平野には、小麦・だいずの産が多く、これらは商品として多量に賣り出される。ここは新しい開拓地であるだけに、農家1戸当たりの耕地も、わが國や華北の場合よりも廣く、家畜の飼育も普及していて、農耕にも盛んに用いられる。

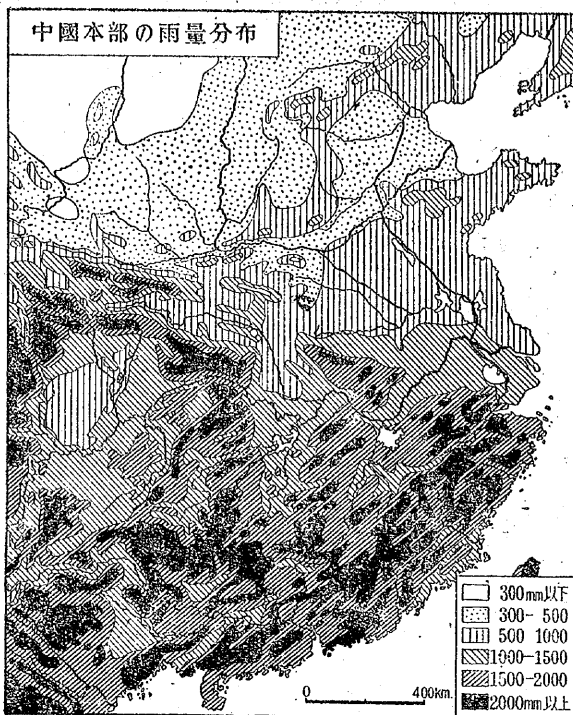
雨量の少ない華北や満州の農家は、おもにどろで作られ、おのこの家や村の周囲には、土べいをめぐらして、生命や財産の安全をはかっている。なお、この地方に限らず、中國の農村ではどこでも防ぎよの設備に苦心を拂っており、中國農村風景に著しい特色を與えている。

【注】 揚州から突出する朝鮮半島では、北半に畑地が多いが、南半は雨量に恵まれて、川の沿岸の低地には、水田がよく發達して、アジア水田地帯の一部をなしている。しかし、この雨も不安定で、ひでりや大水に悩まされることが少なくない。

華中地域 揚子江流域は華北と違い、季節風帯の特色をよくあらわして雨量が多く、水田の開発も容易である。また冬も温暖で、作物の生育期間が長い。それで華北の文化がこの地方へひろまると共に、土地の開拓は著しく進んだ。そしてその生産力は華北をしのいで、中國で最も重要な農耕地帯となっている。

揚子江上流の四川盆地には、丘陵地が多いが、土地はよく肥えている。斜面には水田の階段耕作がよく行われ、多くの人口を養う。中心都市は重慶であるが、成都附近の扇狀地には、古くからかんがい水路網が發達している。揚子江は三峽の横谷をこえ、いわゆる武漢三鎮を中心都市とする湖廣平野に出てからは、沿岸に洞庭湖をはじめ、多くの湖を持つ。これらは揚子江の水量調節に役立つが、それでも、夏と冬との水位の差は、漢口で10メートル内外に達する。沿岸低地の水田化は大いに進み、米産が豊かである。

揚子江の三角州は、南京の下流に位する鎮江附近から始まる。この地方は中國の穀倉で、昔から「江浙みのれば天下飢えず」といわれ、すでに7世紀には、この米を華北へ輸送することをおもな目的とし



して栄えた。この地方には綿の栽培も行われ、農家の副業としての養蚕や、鶏・あひるの飼育も盛んである。また、南部の丘陵地は、中国の茶の大産地となっている。

諸國生糸産額 (單位トン、1936-39年平均)	
日 本	41282
中 國(輸出)	4518
トルコ	233
イタリア	2792
ギリシア	248
ソ 連	1692
世界計	52864

華南地域 熱帯に近い華南は、雨量も多く、かんがい施設の行き届いた低地では、米の二期作も可能である。また、バナナなどの果実もよくみえる。しかし、珠江下流地方以外は、低地に乏しく、低い山地や丘陵地が広い面積を占めている。

て、大運河が掘られたほどである。上海附近には、かんがい・排水用のクリークが縦横に走って、特色ある風景を見せている。しかし、古くは杭州(臨安)が港市と

農民は、一般に低地に集中して米作に従事し、ために低地の人口密度は、はなはだ大きく、廣東三角洲では、一方キロの密度が 1000 人をこえるところもある。これに対して、低地以外は、土じょうもやせており、その利用も進んでいないので、華南全体としては食糧の自給ができず、不足の米を外部に仰いでいる。

福建・廣東方面は著しい沈降海岸の特色をあらわし、入江の奥の狭い平野には人口が多い。この辺は南洋華僑のおもな出身地で、福州・廈門・廣東などの港から、海外へ出かけるものが少なくない。

中國の農村問題 古い農業の歴史を持つ中国本部では、土地はよく開拓されているが、人口が多いので、食糧問題がいろいろ論ぜられている。農民は、一家そろってよく働き、耕地をていねいに利用している。しかし、農業のやりかたには、改良を要する点が少なくないので、収穫高は多いとはいえない。それに、中国の社会には、今日の時勢に合わない古い制度や習慣が守られていることなどもあって、これも農業の進歩をさまたげている。

そこで中国の農業を改善するためには、いろいろな社会問題を解決しなければならない。耕地の拡張、古い家族制度、大地主と小作人、農業施設や技術、作物の品種改良、農民教育、治安の確立、都市及び農村工業の発達などに関する、たくさん問題がある。そこで今日の中国人は、これらの問題を一日も早く解決して、新しい中国を建設しようと努力している。しかしこれらの問題の多くは、わが國の農村生活についても、大いに研究しなければならないものである。

課題 (イ) 黄河の治水に関する傳説について調べること。

(ロ) 中国では水害を防ぐために、これまでにどんな努力がなされて来たか。これについて調べること。

(ハ) 中国本部の各省の名まえを地図によって調べること。

(ニ) 華北・華中・華南の農業に対する自然条件と、わが國のそれとを比

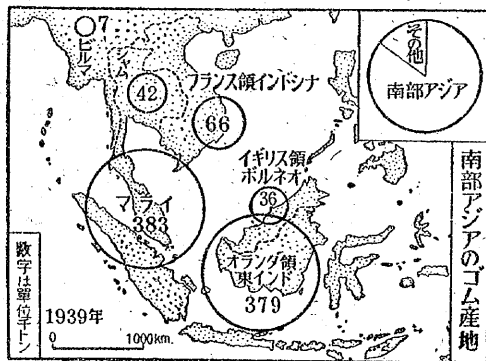
べること。

(ホ) 中国の農村生活について書いた本を読み、農民の家庭の状態や、作物・農具・耕作法・衣服・レクリエーションなどについての話をする。

(ヘ) 郷土にとって、新しい農地調整法がどんな意味を持つかを討議すること。これによって、これまでの地主・小作人関係の悪い面が、どのように除かれるであろうか。

2 特産物に富む熱帯アジア

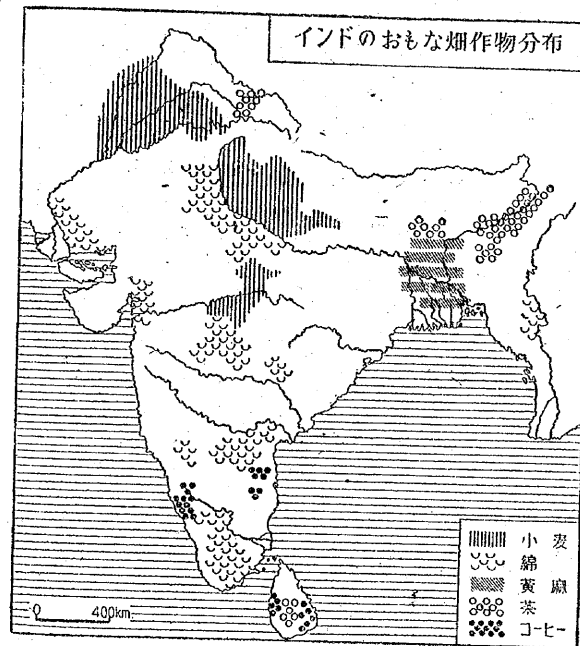
インドシナ半島 南部アジアには熱帯にはいる土地が多いが、大陸から乾いた風が吹く冬は乾季となる。インドシナ山系が脊骨をなしているこの半島では、トンキン平野や、メコン・メナム・サルウィン・イラワジ諸川の下流に広い三角州が発達し、水田が開けている。ここは、気温の上からは、一年じゅう稲を生育させることができるが、かんがい施設が十分ではないから、一年一作が普通である。しかし、米の消費量が少ないので、他へ輸出する余力があり、ハイフォン・サイゴン・バンコック・ラングーンなどは重要な輸出港である。



熱帯雨林の氣候を呈するマライ半島は、世界でも重要なゴムの産地である。この地方では、ゴムの木をアマゾン川流域から移植してゴム園を開いた。それまでの世界のゴム生産

は、アマゾン低地の野生ゴムの採集によっておもに行われていたが、20世紀のはじめごろから、マライやスマトラに大規模な栽培ゴム園が急速に発達して、世界の市場を独占するようになったのである。

インド半島 インド半島の北部には、インダス・ガンジス流域に広い平野が横たわる。前者の流域は乾燥地をなしているが、インドの古代文化は、すでに B.C. 3000 年ごろ、この地方に開けていた。そこへ、中央アジアで遊牧生活を営んでいたアーリア人が南下して、パンジャブ地方に定住して農牧生活をはじめた。これがインド族の祖先であるといわれている。その後かれらは、次第に地味の豊かなガンジス川流域に移って土地を開拓した。今日ここはインド第一の文化地帯となり、カルカッタはその門戸である。



インドは、人口 37000 万を数え、その大部分は農民である。水田は各地に発達しているが、ことにガンジス・ブラマプトラ流域では米作が盛

んで、年三期作が行われる。それでも巨大な人口を支えることができないので、インドシナ方面から米を輸入する。インドには、米のほかにも特産物が多い。特にデカン高原のよう岩台地を主産地とする綿は有名で、ボンベーやマドラスから輸出される。^{ジャスト}黄麻や茶も輸出品として重要である。

インドの農村問題 インドには、農村生活改善のために、解決しなければならない問題がたくさんある。貧農が大部分なこと、大地主と小作人とが対立していること、耕地が細分化されて、その所有貸借関係が複雑であること、農具や耕作技術が旧式であることなどが、まず考えられる。しかしこれらは、インドに限らず、アジアの古い農業国では、程度の差があっても、一般に見られる現象である。

インドの社会にとって特色のある問題は、複雑な身分関係を示す種姓制度である。種姓の数は2000以上に達し、それぞれの種姓によって作られている複雑極まりない社会階級は、外国人には理解できないほどである。その上、言語も多種多様で、これらのことは、人々が協力一致して、いろいろな問題の解決に当たるさまたげとなっている。

しかしながら、最近の農業の進歩に深い関係を持つものは、インド政府の努力によるかんがい事業の発達である。6—10月の雨季の雨量は不安定であるし、乾季には水が得がたい。そこで、近年は各地でかんがい工事を行い、生産の安定増大をはかっている。ことにバンジャブ地方は、大規模なかんがいによって小麦の大生産地となった。

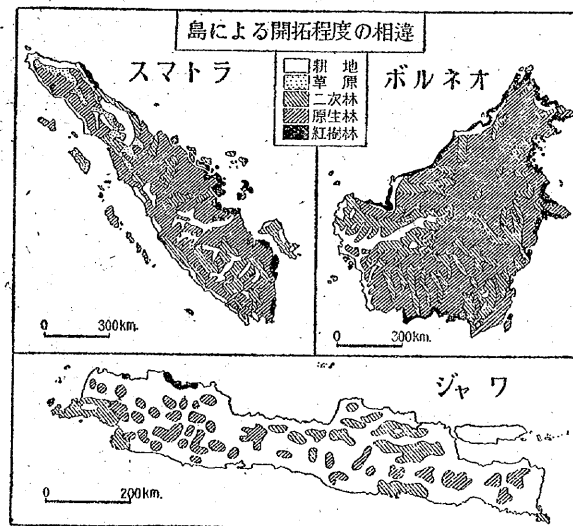
インドの農村では家畜が多く飼われ、ことに牛と山羊の頭数は世界一である。牛は農耕・運搬その他いろいろな役をつとめ、山羊は乳用・肉用に供せられる。このような大きな畜産資源を持ちながら、まだ十分に活用されるまでにはならないで、地方の需要をみたす程度にとどまっている。

マライ諸島 東インド諸島には、美しい弓形につらなる島が多い。

それにはどんな島があつて、どのような排列を示しているか、地図でたどってみよう。ここは赤道をはさんで位するだけに、おおむね熱帯雨林の土地であるが、他の大陸の熱帯に比べれば人口も多く、まだ熱帯農産物として重要なものが少なくない。

フィリピン諸島には、著しい階段状水田が発達して、特色のある風景をあらわしているところもあるが、米は自給するまでには至らない。しかし、さとう・コブラ・マニラ麻・たばこなどの重要な産地である。また、東インド諸島のゴム・さとう・コーヒー・キナ・茶などは世界的産額を持っていて、これらは香港・シンガポールの二大中継貿易港を通じて、温帯各地へ送られる。このような豊富な物産を出すのも、マライのゴム園と同じような大農園が、外国の大資本のもとに、科学的に経営されているからである。これに対して、原住民の農業は小規模で、おもに自家で消費するものを作っているにすぎない。

東インド諸島は16世紀ごろから、薬味や香料の産地としてヨーロ



ツバに知られ、その取引が行われた。けれども土地は長い間ほとんど自然のままに委ねられていた。今日でもまだ原生

林が廣く各地に見られる。この中にあって、ジャワ島だけは著しく開拓が進み、1方キロにつき平均300人以上の大きな人口密度を示している。これはなぜであろうか。

この島には火山が多く、その火山灰は廣く積もって、高温多雨な氣候のために、肥えた土じょうを作っている。そして土地の開拓も早くから割合に進んで、人口も多かった。そこでオランダはこの島を選んで、スエズ運河の開通以後、熱心にここの開拓を始めた。そして各種の大きな農園が生まれ、多くの労力を必要とするにつれて、他の地方からますます人々が移って来て、ついに今日のような大きな密度になったのである。そしてバタビアは現在東インドの文化の中心地となっている。

アジアの米 アジアの農産物の中で、最も特色のあるものは米である。われわれは米を常食とし、食糧といえば、まず米を考える。ところが西洋では、米はあまり作られていない。世界で米を常食とする人々の数は9億にも達するが、そのほとんど全部がアジア季節風帯の住民である。

稲はもともと亜熱帯性の作物で、その生育には、暑さと多量の水を必要とする。この点でアジア季節風帯は、その栽培に恵まれた氣候を持っている。その昔、南部アジアに発した米作は、次第にその栽培地

米の單位面積収量 (1反当たり石, 1935 —39年平均)		
日 本	2.06	
中 國	1.30	
シ ャ ム	0.84	
東インド	(0.83)	
ビ ル マ	0.78	
イ ン ド	0.72	
フランス領 インドシナ	0.62	

域を拡大し、品種の改良も行われて、今日ではわが國の北海道のような高緯度地方にも、これを産出するようになった。これから見ても、わが國民がいかにも米に愛着しているかがわかる。しかし、將來も果たしてこれでよいであろうか。また、單位面積からの米の収量は、アジア季節風帯の中でも、地域によってどうして著しい差があるか、

などの問題について各自で考えてみよう。

世界の米にもいろいろな品種があって、日本米と外國米とでは違っている点が多い。また、米は世界の貿易品としての動きは大きくないが、アジア内ではその取引が行われ、ビルマ(自給率190%), シャム(同178%), フランス領インドシナ(同147%)などはおもな輸出國である。なお、西洋でも、地中海沿岸や合衆國の一部、その他に多少の水田が見られる。しかしこれらの地方では、米はほとんど副食物のように取り扱われているにすぎない。

課題(イ) 南部アジアの米と、わが國の米とは、味がどのように違うか。どちらが多くの人々に好まれるか。

(ロ) わが國や郷土のかんがい施設について調べる。

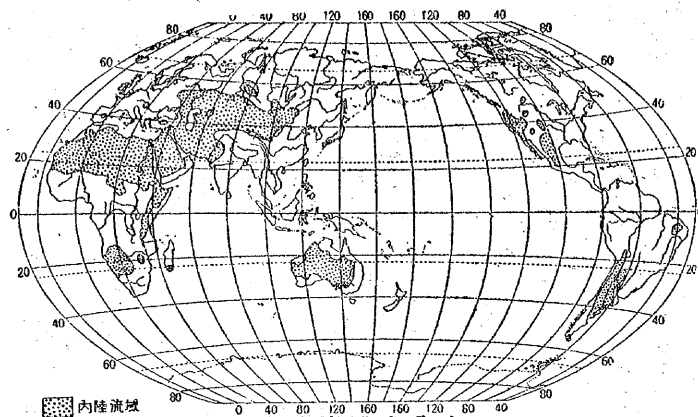
(ハ) わが國の綿の生産状況はどんなであろうか。戦前には、わが國は綿をおもにどこから輸入していたであろうか。

3 泉地農業と遊牧

アジアの乾燥地帯 アジアには乾燥地帯が廣く横たわる。西はカスピ海沿岸から、東は興安嶺にかけての範囲のものは、特に廣大で、中に中央アジア低地・タリム盆地・蒙古高原などを含んでいる。

アジアの内部に位し、周囲を山地に囲まれたこの地域内には、夏の季節風の影響も微力で、一年を通じて雨量は極めて少ない。しかし、高い山地からは雪どけの水が流れくだる。このような川の水量は、われわれが見なれている川のように、下流ほど増加するであろうか。各自で考えてみよう。

乾燥地帯はアジア内部ばかりではなく、西部アジアのイラン・アラビアの高原地方にも及び、更に北アフリカへ続いている。このような氣候の土地は、草原の部分が廣いが、ほとんど雨が降らない奥地では、



内陸流域の分布

さばくとなっていて、人が住めないところもある。

さばくには、岩原と砂原とがあるが、アジアには前者が普通である。しかし、タクラマカンさばくには、砂丘がうねりつらなっている砂原が多い。

乾燥地帯とかんがい このような乾燥地帯では、どんな生活が見られるであろうか。ここでは、水さえ十分に得られれば、耕地とすることが出来る土地も少なくない。気温が高く、土地が肥えている西部アジアのチグリス・エウフラテス沿岸には、すでに B. C. 3000 年ごろ、かんがいによって農耕がはじめられ、バビロニアの古代文化が栄えた。この地方は、アジアとアフリカ・ヨーロッパを結びつける位置にあったので、その後この地方の歴史にはいろいろな変遷があった。今日では、耕地も荒廃したが、ここに発した文化は、古い地中海沿岸のものと共に、のちの西洋文明のたいせつな要素となった。

小規模なかんがいによる耕地化は、昔から方々で行われている。これはオアシス（泉地）農耕であって、山ろくの川の出口やその他の水の得られる地点で農業を行い、これを中心として町が発達している場

合が普通である。タリム盆地・中央アジア・西部アジアには、山ろくや川の沿岸にオアシスの町が多い。どんな例があるか、地図で調べてみよう。

絶海の孤島のようなオアシスの町の生活も、今日では世界の経済とつながりを持っている。ここにも新しい生活様式が次第に取り入れられているし、狭い耕地には、輸出向きの作物も栽培されている。また、中央アジアでは最近ソ連が大規模なかんがい工事を行って、綿の栽培に努力していることは、注目に値する。



蒙古人のバオ（包）

遊牧生活

オアシス以外の生活として、一般に営まれているものは遊牧である。羊・山羊・馬などを飼い、牧草地を追って住居を移動

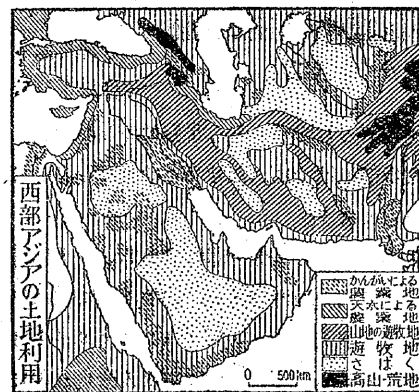
して行く。このような遊牧民の家としては、どんな形式のものが最も便利であろうか。また、遊牧生活地域では、なぜ多くの人口を養っていないかを各自で考えることとしよう。

遊牧民は畜産物を大量に生産して、それを世界に供給しようとは思っていない。家畜の肉や乳は自分たちの食糧とし、皮や毛は防寒材料とするのが普通である。それで、羊も、オーストラリアやアメリカの場合のように、羊毛をとる種類とは違うし、一般に家畜の改良などにはあまり意を用いない。

しかしかれども、自分たちだけで孤立した生活を営もうとは考えて

いない。自分では農業を行わず、また、その住居する地方は天然資源に乏しいから、穀物や衣類をはじめ、いろいろな生活必需品は外部に求めることにしている。そこで近くの町の店や、町から奥地へはいりこんで来る行商人に畜産物を賣って、その金で必要な品物を買う。小さなオアシスの町でも畜産物の交易が一般に見られるが、遊牧地域と農業地域の境近くでは、奥地から畜産物を運ぶ隊商が集まって、かなり盛んな取引が行われることも少なくない。例えば、中国では、海拉爾・洮南・張家口・包頭・寧夏などの交易都市が蒙古高原のへりに並んでいる。また、中央アジアのタシケント・サマルカンド、西部アジアのテヘラン・パグダード・ダマスカスなども隊商の集合地として有名である。

西部アジアの農業地 乾燥地帯が広い西部アジアの中でも、小アジア半島からコーカサス地方にかけては、このような気候の土地はわずかである。トルコ人はおもに農牧業に従事し、地中海沿岸地方には果樹も栽培されている。けわしいコーカサス山脈の南部は温暖で、土地が

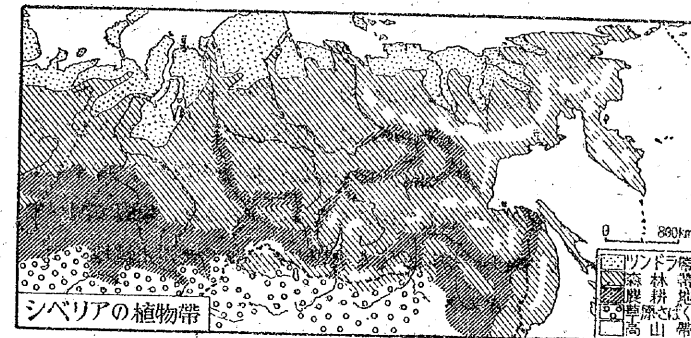


肥え、農業が行われている。西部アジアは、現在、行政上どのような国や地区に分かれているか。また政治の中心はどこか、などについて調べる。

(二) この教科書や他の本で読んだことをもととして、遊牧民の生活の物語を書くこと。

4 新しい姿のシベリア

自然 ソ連の一部を作っているシベリアは、大部分が冷帯に属するが、北極海沿岸はツンドラとなっている。東部には高い山脈が弓形をなして走り、中央部は台地の部分が多いが、川の沿岸には方々に湿地



がある。西部シベリアには低地が広く展開する。

シベリアの冬は寒さがすいぶん厳しい。それで木造の民家も、防寒的に作られていて、家の中は暖かい。しかし、一步戶外へ出れば、嚴重な毛皮の防寒具なしではいられない。もっとも、この季節には、高気圧がおおうので風が少なく、ために気温から想像するよりはしのぎよい。

雪と氷にとざされた冬は長く、しかもこの期間には晝間の時間が短くて、陰うつである。5、6月ごろになると、急に地面が現われ出して、青いものも見えるようになり、夏が近づいたことを思わせ、人々の生活は活氣づいて来る。ところがこの夏もあわただしく終り、9月になると、また暗い寒い冬に包まれはじめる。

シベリアの開拓 廣大な面積にわたって地表をおおう針葉樹林は、タイガとよばれる。この中に住む毛皮獣の毛皮は、防寒用として、高い市場価値を持つので、最初はこれを求めてこの地方にはいりこむものが主であった。そして、これがシベリア開拓の動機の一つをなし、森林地方には、ヤクーツクその他のように、毛皮の取引によって発達した町がある。ロシアは、はじめこの土地に罪人を送って開拓に従事させたが、そのうちに自由移民もだんだんはいつて來た。しかし現在のシベリアの開拓に最も大きな影響を与えたのは、シベリア鉄道の開通である。

この鉄道の沿線には、肥えた「黒土」が細長く連続して、草地をなしている。夏には気温もかなりのぼり、日照時間も長いので、麦類その他の作物がよく育つ。以前には、この地帯は主として牧場として利用されていたが、鉄道開通後は、この沿線に耕地が開けて、町もたくさん発達した。有名な町としてはどんなものがあるか、地図で調べてみよう。特に近年新しい耕地が廣く出現したのはオビ川上流地方で、ノヴォシビルスクやオムスクは、この地帯の中心をなしている。また、ここでは馬や牛の牧畜も盛んである。

帝政時代のシベリアは、おもに本國に利益を吸収することを目的とした植民地として経営されていたので、農牧業もあまり進歩せず、農民の生活程度も極めて低かった。しかしソ連になってからは、新しい社会組織のもとに、シベリアの開発が始められた。そして、今日では新しい農場が開かれ、機械力の利用も次第に普及して來た。また、森林地方では、きつねを飼い、ツンドラ地方では、となかいの放牧が行われている。

ソ連は農牧業のみならず、産業のあらゆる方面にわたって、シベリアの開発に力を注いでいる。しかし、この地域の不利な自然條件の克服には、いろいろ困難が多いので、これに対して、各方面にわたって、

科学的な研究・調査が進められている。

課題 (イ) シベリア鉄道敷設の目的と、開通の年代を調べること。

(ロ) シベリアの行政区画について調べること。

(ハ) 郷土には、鉄道の開通によって、新しく生まれた町の例があるかどうかを調べること。

IV 食糧の大消費地ヨーロッパと

未開拓地の廣いアフリカ

ヨーロッパには、今日大小 30 ぐらいの独立國がある。ソ連を除けば、どれも國土が狭く、中には地図に表わしにくいほどの小さな國もある。ヨーロッパは人口密度の大きいことも諸州中第一で、ことに西部・中部ヨーロッパの商工業地帯には大都市が並び、世界最大の人口高密度地帯を作っている。したがって、ヨーロッパは世界最大の食糧消費地であるが、ここでも農業や牧畜がよく行われている。そしてここ

各國の飼料耕作地及び牧場原野(1938) の農業は、食糧生産に主力を

	耕地面積に 対する飼料 栽培地(%)	全面積に 対する牧場及 び原野(%)
イギリス	67.4	57.8
フランス	41.6	21.2
ドイツ	39.8	18.1
イタリア	28.8	18.8
デンマーク	63.1	9.7
ソ連	13.8	19.5
日本	0.9	4.1

注いでいるアジア季節風帯のものはかなり違って、耕地に飼料用作物を栽培する割合が大きく、また牧場も多い。しかし、ヨーロッパ内でも、よく調べると、地方によって、

それぞれ特色のある農牧生活が営まれている。

次にアフリカを見ると、ヨーロッパとは事情がまるで違っている。ここはほとんど全部がヨーロッパ諸國の植民地で、独立國は例外といつてよい。そして人口密度も極めてわずかで、まだ開拓されない地域が廣大な面積を占めている。せまい地中海によってへだてられたヨー

ヨーロッパとアフリカとでは、なぜこんなに土地の開拓や文化の発達状態が違うのであろうか。

課題 (イ) ヨーロッパのおもな独立国としては、どんなものがあるか。

面積順に並べた表を作り、人口や首府を記入すること。

(ロ) アフリカでは、どここの国の植民地が大きな面積をしめているかを調べること。

(ハ) ヨーロッパの国々と日本とを、面積及び人口について比べること。

1 自然的条件に恵まれたヨーロッパと不利なアフリカ

ヨーロッパの地勢 ヨーロッパはアジアから突出した、一つの大きな半島である。アジアのパミール高原からつらなる大山脈は、一派はコーカサス山脈を通り、一派は小アジアを通してヨーロッパにはいり、両者がいっしょになってアルプス山脈を作る。これがまた曲がって、イタリア半島の背骨を作り、北部アフリカのアトラス山脈に続く。この状況を地図でたどって見よう。そうすれば、これらの新しい山脈ができた地質時代には、いかに複雑な土地の変動が行われたかが想像されるであろう。これらのけわしい山脈にさまたげられて、地中海沿岸に早く芽ばえた文明が、外部に傳わるのが遅れた。

これに対して、北部のスカンジナビア山脈は、そのできた地質時代も古く、その形もなだらかである。この両山地帯の間にはさまって、フランスからドイツにかけて、低い高原状山地が断続しているし、また、イベリア半島は、全体として高原状を呈する。

ヨーロッパにはこのような山地もあるが、地図を見ればわかるように、平野が広い面積をしめている。そしてここを流れる川は流れもゆるやかで、運河で連結され、水運の便に恵まれたものが多い。地図によって、おもな川やその流域の状態を調べよう。ヨーロッパは海岸線の出入りも複雑である。そして海岸から800キロメートル以上へだた

っている地方は、ウラル山脈の附近だけである。どんな半島や湾があるか、地図で調べて見よう。

ヨーロッパの気候 地勢の上から見たヨーロッパは、いろいろな点で人類の活動に恵まれているが、更に気候からも有利な条件を持っている。

わが国の北海道北端の緯度は、ヨーロッパのどの辺を通過しているであろうか。ヨーロッパの大部分の土地が、わが国より高緯度にあるにもかかわらず、温和で、スカンジナビア半島の北端でも、一年じゅう凍結しないのは、なぜであろうか。これはメキシコ湾流の上を吹いて来る偏西風が、暖流の影響をよくもたらすからである。

しかし、東部ヨーロッパまではいると、さすがに気候は冷帯的となり、大陸性の特色を帯びてくる。また地中海沿岸は、夏は南部の乾燥地帯の気候の支配を受け、冬は北部の温帯海洋性気候の勢力下になって、ここに特色ある地中海性気候が生れる。

アフリカの自然 以上のように、ヨーロッパには、地勢・気候の上から人類の生活にはなほだ有利な点が多いが、これと著しい対照を示すのがアフリカである。アフリカが暗黒大陸とよばれて、内部の状態が長い間不明であったことには、アフリカの自然が深い関係を持っている。

まず北部には廣大なサハラさばくが横たわっていて、中部、南部アフリカを地中海沿岸から切り離している。また、海岸から川をさかのぼって内部へはいろいろとすると、すぐに急流や滝にぶつかってしまう。アフリカの川は、どうしてこのように水運に恵まれていないかは、地図で調べてもすぐ明らかになるであろう。この大陸は全体が一大高原をなしていて、そのへりが海に臨んでおり、海岸線もごく単調である。その上に内部の気候は極めて悪く、いろいろな風土病も多い。今日でも、家畜が流行病によって倒されてしまう地方が、中部アフリカ

には廣く残されている状態である。また、南部アフリカには、赤道をはさんで、サハラさばくと対称の位置に、カラハリさばくが横たわっている。

このように、アフリカは、人類の活動に不利な点が多い。しかし地中海沿岸と南部アフリカ南東部だけは気候も良好で、ここはアフリカで最も進んだ文化地帯となっている。

課題 (イ) ヨーロッパのけわしい山脈のつらなりかたを図示すること。

また有名な山の名まえ・所在地・高さを調べること。

(ロ) ヨーロッパ及びアフリカの土地の高さの特色を第21ページの表によって調べること。

(ハ) ヨーロッパ諸地域の気温や雨量の状態を、気温・雨量表によって調べること。

(ニ) アフリカの流行病について調べること。

2 地中海性気候と農業

ナイル川と文明 地中海沿岸は、古く開けた地方である。特にエジプトでは、B.C. 4000 年ごろから、ナイル川下流沿岸に文明が栄えたが、これは古代の最もすぐれた文明と認められよう。そしてこのような文明が発達したことについては、ナイル川が深い関係を持っている。さばく地方には、一般には大きな川は存在できないはずである。しかしナイル川のようにその源を雨の多い地方に発し、豊かな水量をもって、さばく地方に流れこむものがある場合は例外である。このナイル川が、支流青ナイルを合してから、定期的はんらんを行い、これがどんなに沿岸の住民の生活を豊かにしたかは、あまりにも有名なことである。古代のエジプトでは、このはんらんに関連して、幾何学・測地学・天文学も発達した。

ナイル川は沿岸の住民に大きな恵みを与えては来たが、自然のまま



に頼っていたのでは、はんらんの時期や程度によって、作物の豊凶が大いに支配される。また、はんらんの時期である夏・秋のころには、耕作ができない。1902年にアスワンに大きなダムが設けられ、水量が調節されるようになってからは、このような不便がなくなった。それからは、一年を通じて、畑に水を引いて耕作ができるようになったし、沿岸の耕地面積もずっと廣くなって、エジプトで最も重要な農作物である綿の産額が増大した。しかし、以前のように肥えた土じょうが自然から與えられることがなくなったので、

今度は肥料の心配をしなくてはならなくなったことは、やむを得ない。

地中海沿岸の農牧業 地中海沿岸の開拓は、古くギリシア時代 (B.C. 8 世紀ごろ) に始まる。そのころ、ギリシアの農民は、海外の開拓にのり出して、地中海沿岸の各地にひろがった。これにつづいて、ローマの地によったローマ人は、B.C. 3 世紀ごろイタリア半島を統一し、さらにガリア地方 (今のフランス方面) にも進出して、地中海沿岸の全地域に大きな農牧地を持つようになった。

このようにして一應の開拓をみたこの地帯は、その後ポルトガル・イスパニア・イタリアなどによってますます開拓の歩が進められた。そして 19 世紀以後は、フランスによってアフリカ側の大規模な開発が行われている。

地中海沿岸の夏は、さばくのように乾燥して晴天が続くが、冬は温暖で降雨がある。土地は山がちであるが、農業がおもに行われ、傾斜

地もよく耕されている。しかし、一般に水に不足するので、かんがい施設には各地で苦心を拂っている。西洋人の常食となっている小麦の原産地は、この地中海東部沿岸といわれているが、現在ではイタリアのロンバルディア平原やイベリア高原をきざむ谷底が、その生産地である。けれども、その収量はあまり大きいとはいえない。

これよりも地中海沿岸の大きな特色となっているのは、夏の乾燥に強い果樹の栽培である。オリーブとぶどうが最も普通で、レモン・オレンジなども各地に多く、これらの樹木農産物は、この地域の主要な輸出品となっている。また牧畜も盛んで、羊や山羊が数多く飼われ、冬はふもとの村にくんだり、夏は山の牧草地にのぼって行く家畜の姿が見られる。

課題 (イ) 歴史の書物によって、エジプトの古代文明について調べ、またエジプトの特色ある風景をあらわす写真や絵を集めること。そして、これらをもととしてエジプト旅行の話を組ですること。

(ロ) ナイル川のはんらんによって、沿岸の人々はどんな利益をうけて来たか。また郷土でも、川のはんらんによって、大きな利益をうけて来たか。もしそうでなかったら、エジプトと郷土とは、なぜはんらんの影響にそんな違いがあるのか。

(ハ) 郷土の果樹栽培と、地中海沿岸のそれとを比べること。そして郷土の気候と果樹栽培との関係を調べること。

3 商工業と農牧業

中部及び西部ヨーロッパ ここでは18世紀後半の産業革命以来、商工業が著しく発達して、大都市が数多く生まれ、ヨーロッパの中でも人口密度が最も大きい地域を作っている。したがって食糧の大消費地であるが、各国はその多くの人口と、高い生活程度を維持するためにいろいろな苦心を拂っているから、農牧業に対する方針や態度が、國

によって異なって来る。そこで、その代表的な例について調べることとしよう。

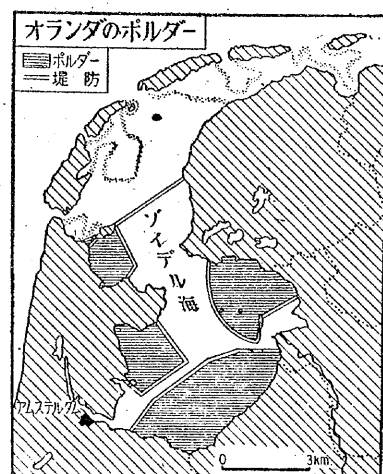
イギリス・デンマーク・オランダ イギリス諸島のうち、おもな平野は、大ブリテン島のイングランド東半に開けており、ウェールズやスコットランドは山がちである。しかし、その山地もあまり高くはなく、平地が方々にはさまっている。アイルランドのあるアイルランド島の内部にも広い平地がある。イギリス諸島はかなり高緯度にあるにもかかわらず、ヨーロッパでも代表的な温帯海洋性気候を示し、雨量も適度にあつて、人類の活動には大いに恵まれている。

今日のイギリスは世界の工業國として大発展をとげ、ロンドン・マンチェスター・バーミンガムをはじめ、世界的大工業都市が数多く発達している。ところがこの國は、産業革命が行われる前までは農業國であり、また牧羊も盛んで、世界で有名な羊毛の産出國であつた。それが産業革命以後は事情が一変して、現在では工業人口が32%をしめるのに対し、農業人口は6%にすぎない。そして食糧の大部分を海外の大量生産地に依存している。そこで、ここの農村では、安価な食糧生産はやめにして、都市の日常生活に必要で、しかも高価なものを供給することに方針を改め、酪農・野菜栽培・園藝などに力を注ぐようになった。したがって、工業國でありながら牧場の面積は廣く、羊・牛・豚の頭数も多い。アイルランドでは、農牧業が最も重要な産業となっている。

デンマークでは、ほとんど全國民がこぞって農牧生産に努力している。この國は面積がせまい上に、ユートランド半島は砂地が多く、土地はやせて地下資源にも乏しい。以前には、國民は生活に苦しみ、特に19世紀後半には、ひどい苦境に陥った。そこで國民は協力して農業のやり方を合理化して、酪農に力を注ぐようになってからは、生活が大いに改善された。土地もよく開墾され、農民はほとんど自作農で

あり、酪農品をイギリスをはじめ工業諸國へ盛んに輸出する。農村の協同組合の發達は模範的で、農民教育もよく普及している。

ライン・マース川下流の低地に位するオランダは、國土の4分の1が海面以下にある。この地方は、歴史時代にはいつてから、土地がだんだん沈み出したので、オランダ人は常に海と戦って來た。高い堤防、縦横に走る排水用のみぞ、排水のための風車などは、この國の農村風景の特色である。しかも、オランダ人は單に海に対して防いでいるばかりでなく、ゾイデル海の埋め立てに着手し、計画通りに進めば、1958年にはこの浅い海は消滅する予定である。このようにして新たに生まれた土地は、ボルダーとよばれ、牧場として利用されている。オランダでも酪農が盛んであるが、園藝も行われ、球根・果実・花などの輸出が多い。しかし最近また海水のはんらんが起ったのは、なぜであろうか。これによって、この國にはどんな被害があったであろうか。



フランス・ドイツ フランスの南東部にはジュラ山脈やアルプス山脈がそびえているが、國の中部にはなだらかな中央高原が横たわって、多くの川の水源をなしている。諸川の流域には平地や丘陵地が多く、すぐれた農地を與えている。また氣候にも恵まれており、古來農業國として有名であったが、現在でも農業人口は35%に達している。土地はよく耕されて、小麦その他の穀類の産が多い。地中海沿岸にはぶどうの栽培が盛んで、ぶどう酒の産額は世界一である。養蚕も行われ、

一般にこの國の農村では、じみな生活が営まれている。しかし、農業の経営は小規模で自給の傾向が強い。そこで工業が次第に盛んになり、また一方、海外から安い食糧がはいって來るにしたがって、この國の農村にもいろいろな問題が起って來ている。

ドイツの農業の特色は、科学的に行われて來たことである。北部の平野には、過去の氷河が残した砂や小石の丘陵列が多く、土地はやせている。ここを開拓して農地と化し、また化学肥料の研究を進めて自然の不利を補っている。麦類・てんさい・じゃがいもの産が多く、特にじゃがいもの産額は世界的である。世界のじゃがいもの主産地を調べると、ドイツからソ連へかけての地帯に限られるくらいである。これは住民の常食としても消費されるが、また家畜の飼料として、あるいはアルコールやでんぷん製造原料として重要な意味を持っている。

スイスその他 山國であるスイスの自然は、農業には有利ではない。しかし19世紀のはじめまでは農業を主体とし、手工業が多少行われている状態にすぎなかった。それが今日では、この國の唯一の動力資源である水力をよく利用して、世界でも有数な工業國となった。食糧・原料品は輸入するが、そのかわり精巧な工業品を輸出している。なお、この國では牧畜も盛んで、アルプスの草地は夏の牧場として利用され、家畜の季節的移動の風景も、農村の一特色となっている。アルプスといえば、われわれはすぐにけわしい山地を思い出すが、この名まえのもとをただと、牧場という意味から殆どしているのである。

ドナウ川沿岸地方には、ヨーロッパでも重要な農業地が發達しているが、特に中流のハンガリー盆地と、下流のルーマニアの平野とは、小麦・とうもろこしの生産地として重要である。前者では、ヨーロッパ人化したアジア人種のマジール族が、進んだ技術の農業を行っている。

課題 (イ) 西部、中部ヨーロッパ諸國の農牧事情と、わが國のそれとを

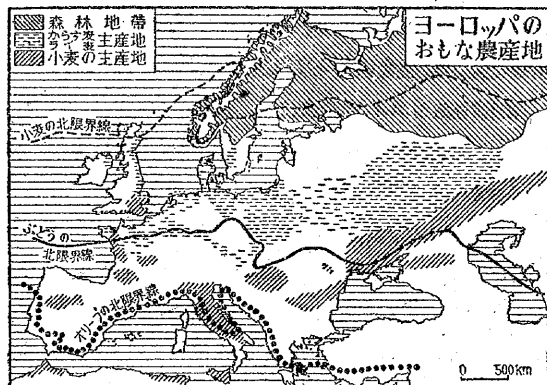
比べる。そして、わが國の農牧業を發展させるためには、各國のどのような点を見習ったらいかにについて、討議すること。

(ロ) デンマルクの農村の協同組合について調べて、組で報告すること。また、その組織や仕事を、わが國の農業会のそれと比べる。

(ハ) スイスの少年・少女であると仮定しよう。そしてスイスの山地で家畜を飼う生活の話を組ですること。

4 寒い地方の農作物と、黒土地帯の農業

ライ麦とからす麦 ノルウェーの海岸は、緯度の割合には氣候が温和であるが、バルト海沿岸から東部ヨーロッパに進むにしたがって、



冬の寒い期間が長くなって、冷帯氣候の特色をあらわして来る。モスクワ附近はまだ混合樹林帯であるが、一般には 55° — 60° N 附近からは針葉樹林が多くなる。また、地表には過去の氷河が残した丘陵や湖沼が散在して、土地もやせている。このような地方では農業も困難になるはずである。ところがヨーロッパでは、はるか北方まで農民が定住していることについては、ライ麦やからす麦の栽培が大いに関係を特っている。

ライ麦は寒さに強く、やせた土地でも育つ。そのかわり、高温に対しては弱い。ライ麦の世界分布を調べると、中部から東部ヨーロッパへかけての地帯以外には、あまり作られていないことから、この作物

がいかにヨーロッパの寒冷な地方にとって重要な意味を持つかがわかる。これはこの地方の住民が日常たべる黒パンの原料としてたいせつなものとなっている。

からす麦も同じく寒さに強く、これは他の大陸でも栽培されている。オートミールその他として、食用にも供せられるが、多くは家畜の飼料に用いられる。北部ヨーロッパのスウェーデンやフィンランドでもこれを多く作って、酪農に力を注ぎ、製品を工業國に供給する。

黒土地帯 黒海の北部、ソ連のウクライナ地方を中心として、肥えた土じょうの黒土地帯が、廣大な面積にわたってひろがっている。そしてこの延長がシベリア鉄道沿線にも及んでいるのである。この黒土地帯は、ヨーロッパの食糧生産の上に重要な意義を持って来た。すなわち、この地帯から生産される小麦は、ヨーロッパ工業諸國へ送られ、これによってこの地帯は 18 世紀以來、ヨーロッパの穀物倉の役目を果たしていた。しかしながら過去の農民の多くは貧農で、小規模な耕作を行っていた。これに対して、土地の大部分は大地主の所有に属し、兩者の対照及び対立は、当時の社会の一特色であった。

ソ連は革命後、1928 年から引きつづいて産業 5 箇年計画を実施し、國內のあらゆる産業の社会化、國営化をはかって来たが、農業にも大きな変化がもたらされた。耕地はほとんど國営農場のソフホーズか、農民組合によって共同經營されるコルホーズとなった。前者では、農民はその労働者として働いて給料を受ける。後者では、組合員として共同作業に従事し、收穫はまず共同の出費に当てられ、残りは人々の働き高に應じて分配される。新しい開墾も進んで新農場が生まれ、農業の機械化も進んで、生産が増加している。

世界の小麦生産 小麦は、米と共に世界の二大主要食糧となっており、世界人口の 3 分の 1 はこれを常食としている。世界の小麦生産分布状態を見ると、米の場合とちがっている。高温多湿な熱帯には、ほ

諸國の小麦需給（單位 万トン、1939）

	生 産	輸 入	輸 出	差 引
日 本	166	4	28	142
イ ン ド	1009	14	8	1015
中 國	1730	94	12	1812
イ ギ リ ス	168	568	15	721
ド イ ツ	561	154	0	715
フ ラ ン ス	780	53	18	815
イ タ リ ア	800	31	14	817
ル ー マ ニ ア	445	0	113	332
ソ 連 邦	4062	13	134	3941
合 衆 國	2055	30	264	1821
カ ナ ダ	1333	3	507	829
アルゼンチン	915	—	488	(427)
オーストラリア	577	0	232	345

とんど作られていないが、そのかわり、かなりの高緯度地方や内陸地方にまで栽培されていて、その分布範囲はすいぶん広い。もともとこの作物は、寒さに対しては稲よりもはるかに強く、また割合に乾燥した氣候を好むものであるが、新しい品種の出現によって、ますますその適應範囲を拡大したのである。

ヨーロッパからの生産は、世界産額の3分の1以上をしめる。フランスやドナウ川沿岸地方は古い産地であり、ソ連の新農場はその大きな生産を更に増大しつつある。しかし、小麦の大消費地であるヨーロッパでは、それでも足りないので、多くの國々がこれは海外に求めている。

今日の世界の穀倉は、合衆國・カナダ・アルゼンチン・オーストラリアである。そして、これらの國々の主産地は、いずれもやや乾燥した氣候の草原で、しかも人口密度が小さいこと、開拓の歴史の新しいことなどを共通な特色としている。

なお、大麦は高温にも低温にもかなり強いので、世界におけるその分布範囲ははなはだ広い。しかし、その栽培面積は割合に小さく、ヨーロッパやアメリカでは、一般にこれを家畜の飼料に供している。

課題（イ）ソ連の5箇年計画に関する資料を集めて、その大要を組で話すこと。

（ロ）ウクライナの農業の中心地及び港を地図で調べること。

（ハ）わが國及び郷土では、大麦が一般にどのように消費されるか。

（ニ）北部ヨーロッパの冬の生活について書いたものを読んで、その大要を組で話すこと。

5. アフリカの開拓

地中海沿岸を除いたアフリカは、長い間、実情のわからない暗黒の大陸であった。15世紀末になって、南端の喜望峯をまわる航路が発見されてから、海岸地方だけは、だんだん明らかになって来た。これに反して、内部の事情は、ようやく19世紀になってから、ヨーロッパの探検家の努力によって、次第に世界に紹介されるようになった。特にイギリスの宣教師リヴィングストン（1813—1873）は、燃えるような宗教的信念をもって、30年間にわたって奥地の原住民と苦樂を共にした。そして、その旅行記は、多くの宣教師や探検家をアフリカへ向かわせる原動力となった。それ以後、この大陸の各地方は、ヨーロッパ人によって開拓が進められて今日に至った。このようにアフリカは、名まえの上では旧大陸の一つでありながら、大部分は新しく開かれた土地である。

アフリカの地図をながめると、早くヨーロッパ人が到着したギニア湾沿岸には、象牙海岸とか、黄金海岸とか、珍しい地方名が残されていることに気がつく。このような名まえは、どういふことから發したものか調べてみよう。そうすれば、過去にこのへんの地方が持っていた經濟的意味がわかるであろう。現在でも、原住民は多く幼稚な農業を営んでいるが、一方では、海岸から内陸へかけて熱帯農園農業がはじめられ、ココア・油やし・落花生などを産出するようになった。し

かし、不健康地が多いことと、勞力が豊富に得られない点で、アジアの熱帯よりは條件が劣っている。

この大陸の中でも、南アフリカは氣候もよく、土地も肥えている。1488 年、ポルトガルの航海者バルトロメオ＝ディアスは、はじめて南端の喜望峰に達した。このみさは、最初「暴風みさき」と名づけられたのが、その後、現在の名まえに改められたものである。そのいきさつを調べると、いろいろおもしろい当時のことがわかるであろう。

南アフリカの開拓は、17 世紀ごろからオランダ人によってはじめられた。19 世紀にはいつてからは、イギリス人が次第に多くなった。特に 19 世紀中ごろ以後、この地方がダイヤモンドや金鉱に富むことがわかったと、これを目ざして多くの人々が渡来して鉱業地として発展した。そして、1910 年、南アフリカ連邦が組織されて、イギリスの自治領となった。しかし農牧業も盛んで、とうもろこし・小麦・さとうきびなどの産が多いし、内部の高原地方の草地では、羊や牛が多く飼われ、ことに羊毛は重要な輸出品となっている。

課題（イ） アフリカ大陸は、現在どこの國々の植民地に分けられているか。また、独立國はどこかを調べること。

（ロ） 資料が得られたら、アフリカの有名な探検家が、どんな苦しい生活にたえて努力したかについて調べて、それを組で話すこと。

V アメリカの躍進

長い歴史、古い傳統、高密度の人口を持つ東部アジアに対して、廣い太平洋をへだてて横たわるのが、新しい天地の南北アメリカである。北アメリカの一部は、早くも 11 世紀にノルマン人によって発見されたともいわれているが、事實は兩大陸ともに長い間アメリカインディアンの居住地にとどまって、世界の文明人には知られない天地であっ

た。ところが、科学の進歩、海外貿易發展の氣運は、ついに 1492 年、コロンブスの西インド諸島への到着となった。引き続いて幾たびが行われた探検によって、この土地の事情が明らかになるにつれて、ヨーロッパ人の新大陸への移住が開始された。そして今日では、カナダ・合衆國方面にはアングロサクソン民族が多く、メキシコ以南は、おもにラテン民族の居住地となっている。また、わずか 300 年内外の間に巨人の歩みをもって發達をとげた新大陸の産業は、古いアジアのそれと比べると、いろいろな点で違い、新しい土地の特色をよく表わしている。

1 自然の特色

南北アメリカの地勢 地図をながめれば、南北アメリカは、地勢の上から類似している点が多いことに気がつくであろう。第一に、大陸の輪郭が似ている。また、太平洋側には高くてけわしい山脈がづらなっていることや、この山地帯は中央部で幅廣くなっている点も似ている。有名な山脈や高山にはどんなものがあるか、地図で調べてみよう。そのついでに、この山地の延長が諸大陸の間をどのようにつらねているかを見ると、これにもなかなかおもしろいことが発見される。アジアとの間は、この続きである弓形のアリューシャン列島が連絡しているし、南北アメリカの間には西インド諸島があつて、これもまた著しい弓形を作っている。更に南アメリカの南端からは急に北東に轉じ弓形につらなる島々を通して南極大陸にまで延びている。

次に兩大陸の東部を見ると、北アメリカではカナダから合衆國へかけて、ラブラドル高原（台地）や、なだらかなアパラチア山脈が横たわっているが、南アメリカの東部でも、ブラジル高原が、だいたい同じような位置をしめている。これらの山地や高原は、西部の山地と違って、古い地質時代の山地の名残りであり、長い間風雨に侵されて低

くならかになったものである。

このような東西両山地にはさまれて、廣い平原が横たわっている点も兩大陸で似ている。北アメリカでは、その中央部に当たって、廣大な中央低地が開けて、ミシシッピ川がゆるやかに流れる。これと同じように、南アメリカでも、その中央部に当たってアマゾン川やラブラタ川流域に廣い平野が開けている。

南北アメリカの氣候 地勢の上からは似た点が多い南北アメリカは、氣候についても同様であろうか。兩大陸の位する緯度の關係から、この点では少しく違っている。

北アメリカでは五大湖のあたりから以北は冷帯となって、カナダでは針葉樹林地が廣く表われ、更に北に進めば寒帯となる。これに対して、南アメリカには、このような土地はほとんど見られない。また、北アメリカの地味の肥えた平野である中央低地は、亞熱帯・溫帯・冷帯草原などの氣候に分かれて変化に富み、それぞれの氣候に適應したいろいろな農作物がよくみのって、世界的大生産地となっている。ところが、南アメリカで最も廣い平野のアマゾン川流域では、熱帶雨林が地表をおおって、非生産地が廣い面積をしめている。しかし、ラブラタ川流域の平野は溫帯に属して、最も重要な生産地である。ところがこの平野の横たわる部分では、大陸の幅がせまくなっているために、北アメリカの平野のような廣大な面積を望むことができない。

北アメリカの西部山地帯の中央部あたりは、山脈・高原・内陸盆地などから成っていて、東西の幅が廣い。ここでは、乾燥地帯が廣い面積をしめて、自然の牧場となっている土地が多い。これに対し、南アメリカの乾燥地帯は、南部アンデス山地東側のバタゴニア地方に見られる以外には、あまり廣いものがない。低緯度のアンデス山地では溫和な氣候の地方が少なくなく、特に高原をなしている地方は、人類の居住地として好適な條件をそなえて、都市さえも発達している。

なほ、合衆國のカリフォルニアや、南アメリカのチリ中部の海岸地方には、地中海性氣候を示す土地があって、特色のある農業の發達を促している。

課題 (イ) 東京、シアトルを結ぶ大國航空路は、どのような道すじを通るかを、地球儀によって調べる。

(ロ) アメリカで、しばしば地震に襲われる地帯は、わが國土と、どんなつながりを持っているかを調べる。

(ハ) アメリカのおもな生産地帯の氣溫や雨量を、郷土のそれと比べること。

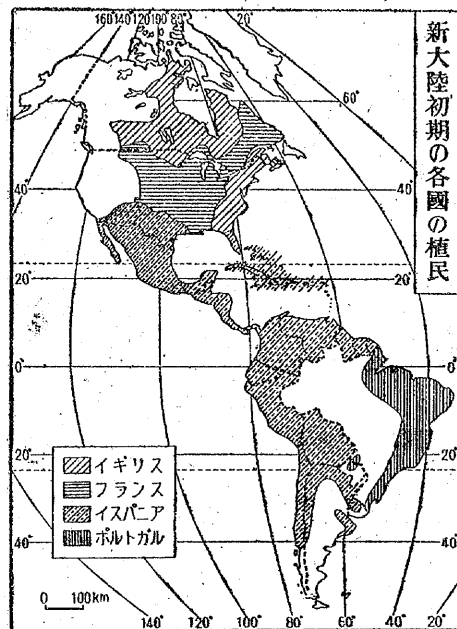
(ニ) コロンブスの航海の航路を調べる。

2 大規模な北アメリカの農業

北アメリカの植民と土地の開発 ヨーロッパ人が渡來する以前のアメリカは、おもにインディアンの居住地であり、極北の地にはエスキモーが海に依存する生活を営んでいた。インディアンの中には高い文化を築いたものもあったが、大部分は狩猟や漁業に従事し、これにともなうて幼稚な焼き畑耕作を行っていた。しかし、このインディアンもわれわれに新しい作物を教えてくれた。とうもろこしはインディアンの常食であつたし、たばこ・じゃがいも・メロン・落花生・トマトなどもアメリカから旧大陸へもたらされたものである。

北アメリカの植民は、主としてイスパニア・フランス・イギリスによって行われた。イスパニア人は、16世紀以來、メキシコ・南アメリカ方面の鉱山開発に力を注ぎ、フランス人はセントロレンス川をさかのぼって、ケベックその他の植民都市を建設し、更にミシシッピ流域をくだって、中央低地にも進出した。しかし、かれらは、漁業や毛皮取引をおもな目的とし、土地の開拓はほとんど行わなかった。

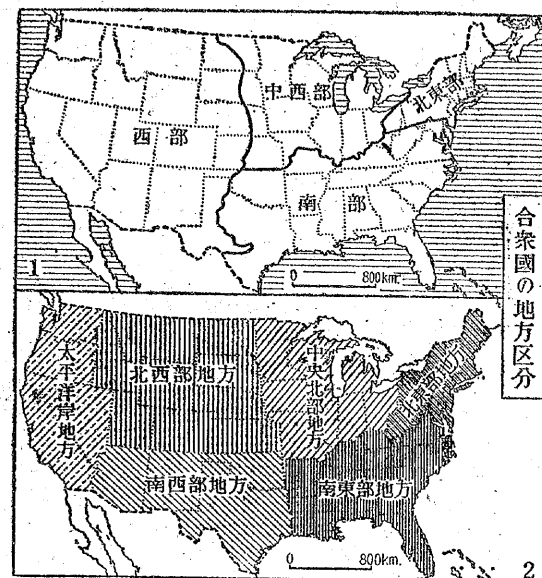
アングロサクソンの植民は、イスパニア人やフランス人よりおくれ



て、16世紀末から少しずつ開始された。特に1620年、メイフラワー号によって120人の清教徒がニューイングランド地方に到着してからは、本國の虐政からのがれて、自由な天地を求める移民が継続と渡來して土地を開拓した。そして1776年、東部13州によって合衆國が組織され、独立の宣言が行われてからは、積極的開拓が開始された。

それ以後、特に注目すべき社会現象は農民の西進運動で、「若者よ、西へ行こう」の声に應じて、元気な開拓者は、西方の肥えた廣い平野へ向かって移動し、困難な生活によくたえて、新しい土地の開拓に従事した。この移動には、鉄道の発達が大きな役割を演じた。そして、独立当時自給的傾向が強かった農業は、次第に市場を目標とした生産と変わり、ここに大規模な農場が出現しはじめたのである。

北アメリカの農業地帯 アジアの農業地帯では、その多数の人口を支えるために土地をよく耕し、多くの労力を耕作に注ぎこんでいる。特にわが國では、作物の手入れもこまかに行きとどいている上に、一般に二毛作以上の土地利用が行われ、單位面積からの収量は、はなはだ大きい。そして收穫物は、主として各農家や國內で消費される。ヨ



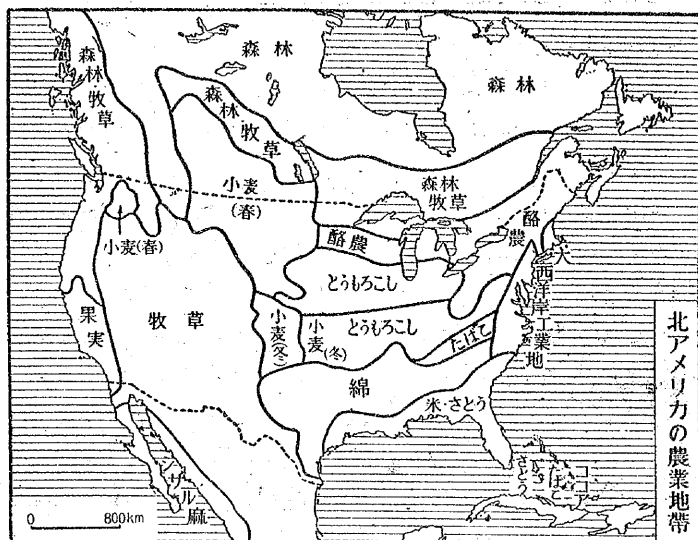
ーロッパでも、一般の農村では、経営も小規模で、いろいろな作物を組み合わせさせて栽培し、耕地をいねいに利用している。

これに対して、新大陸の土地利

用に見られる大きな特色は、粗放的ではあるが、大規模な経営による大量生産が行われていることである。ことに合衆國からカナダへかけては、それぞれの地方の氣候や地味に合い、かつ市場に供給することを目的としたいろいろな作物地帯が、中央低地を中心として廣く展開し、機械力を利用する農業が普及している。

まずメキシコ湾沿岸地方は亞熱帶氣候で、米やさとうきびが作られる。その北には綿地帯があつて、世界の綿の半ばを出し、ニューオーリンズやガルベトンがおもな輸出港である。多大の労働力を必要とする綿地帯には、小作人として働いている者が多い。

廣いとうもろこし地帯では、收穫物はおもに家畜の飼料に供せられる。したがつてこの地帯は、肉用牛・豚・馬などの牧畜地帯でもある。五大湖附近の酪農地帯には乳牛が多く、からす麦や大麦が飼料として栽培される。



諸國の綿産額	
(單位千トン、1936—39年平均)	
合 衆 國	2923
イ ン ド	1037
ソ 連	751
中 國	596
エジプト	420
ブラジル	414
ペル	84
メキシコ	70
世 界 計	6780

いる。このような方法によれば、アジアやヨーロッパで行われている農業に比べて、単位面積からの収量は少なくなる。それにもかかわらず、アメリカではこのような方法を用いることが、なぜ有利なのであろうか。また、わが国やアジアの諸国では、果たしてこの方法が有利に営めるかどうかについて討議してみよう。

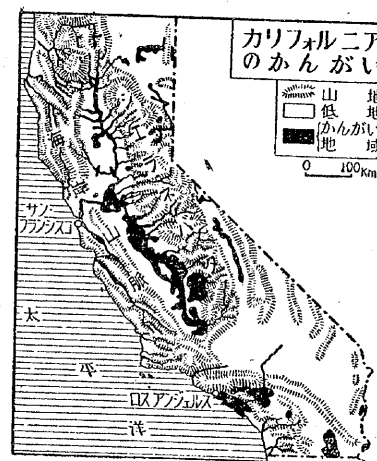
諸國1ヘクタール当たり小麦收量(單位キントル, 1937—38年平均)		
日本	イ	18.1
中	リ	12.7
イ	ス	23.3
ド	ツ	25.0
フ	ス	16.6
イ	ア	16.1
ル	ニ	11.6
エ	ブ	21.2
ソ	ア	10.5
合	連	9.1
カ	國	7.1
ア	ダ	10.1
オ	ン	8.2

中央低地の西部には、ロッキー山ろくのグレートプレーンズをはじめとして、自然の牧草地在、羊・牛・馬などが多数飼われている。太平洋岸へ出ると、地中海性氣候の土地が表われて、果樹の栽培が大規模に行われ、また、ここではかんがい

の進歩によって、小麦の生産も増加した。

熱帯の西インド諸島の開拓も次第に進んで、さとうきび・たばこ・バナナなどの大きな農園が経営され、これらの農産物は、多く合衆國へ輸出する。

メキシコの農業は小規模であるが、溫和な高原上に小麦・とうもろこし、暑い海岸地方に綿・さとうきび、その中間地帯にコーヒー・たばこが作られ、高さによる氣候の相違をよく表わしている。



とうもろこしの重要性　こ
れはアメリカの作物として、
はなはだ重要なものであり、
ここの古い文化と深く結びつ
いている。ヨーロッパの移民
が新大陸へ到着したとき、こ
の作物が方々に栽培されてい
るのを見た。これは夏は相当
暑く、また雨量が豊かな地方
にはよく育つ。その上に栽培
も容易で、生育期間も短くて
すみ、しかも収量が多いので、

諸國のとうもろこし産額 (単位 万トン, 1938)		
日 本		8
中 國	滿州	231
	中国本部	480
イ ン ド		204
ルーマニア		512
ユーゴスラビア		476
合衆國		6508
ブラジル		602
アルゼンチン		485
世 界 計		11550

アメリカ初期の移民にとっては便利な食糧となった。今日では、いろいろな品種ができた結果、熱帯や寒冷な土地以外では世界各地に栽培されている。

合衆國は世界一の産額を持ち、一部は食糧として用いられるが、その大量生産地では大部分が家畜の飼料として作られている。ヨーロッパでは、地方によって食糧として消費したり、おもに飼料に用いたり、いろいろである。そしてここへのおもな供給地は、南米のアルゼンチンである。アジアではこれが多く作られている地方はどのへんであろうか。またどのやうに消費されているかを調べてみよう。

農業地帯の移動 北アメリカの農業地帯の大部分は、最初から今日のような姿で出発したものではない。これまでにいろいろな変遷を経て來たし、現在でもまだ動いている。このような性質を示す一例として、小麦地帯の歴史を調べてみよう。

小麦生産の最初の中心地は、ニューイングランド地方であったが、開拓者の西方への移動にともなって、小麦畑も西へ拡大して行った。そして、その生産の中心が肥えた中央低地に移るにつれて、ニューイングランド地方の農業は次第に衰えた。中央低地に移った小麦畑も、いっそう収穫の多い地方へ向かって、その中心が年と共に動いて來たが、特に 1860 年の鉄道開通によって、カナダのウィニペグを中心とする大生産地帯が出現した。

小麦栽培の中心地帯が絶えず動いて來たのみならず、その栽培面積にも時代による消長がくり返されて來た。例えば、第一次世界大戦中には、各國がアメリカの小麦を求めたので、その栽培面積は激増し、

西部の乾燥地帯へも進出した。ところが戦後の不景氣によって、耕地の荒廢したもののが少なくなかった。そして特に乾燥が著しい地方では、強い風によって見すてられた耕地表面の肥えた土じょうが、どんどん吹きとばされるようになった。なお、最近に見られる著しい現象は、綿地帯の中がやや乱れかけて來たことである。

このように、合衆國やカナダの農牧業は、世界の景氣や需要の変化などに影響される点が多く、これに應じて農村社会にもいろいろな問題が起る。そこで政府は農村保護について、いろいろな政策をとって來ている。

課題 (イ) アメリカインディアンの名まえの起り。

(ロ) 地図で見ると、北アメリカの國家や州の境の定められ方は、旧大陸のそれとどのように違っているか。またその理由。

(ハ) 北アメリカで用いている農業機械には、どんなものがあるか。

(ニ) 北アメリカの各農業地帯に発達している農産物のおもな集散地や農産物の輸出港。

(ホ) わが北海道の農業のやり方が、アメリカのそれと似ている点、及び違う点。

(ヘ) わが國や郷土の農村でも、年によってその種類や栽培面積に變動がある作物があるかどうか。

などについて調べてみることに。

(ト) わが國は今後北アメリカからどのような物資を必要とし、また、わが國からは何を輸出したらよいかについて討議すること。

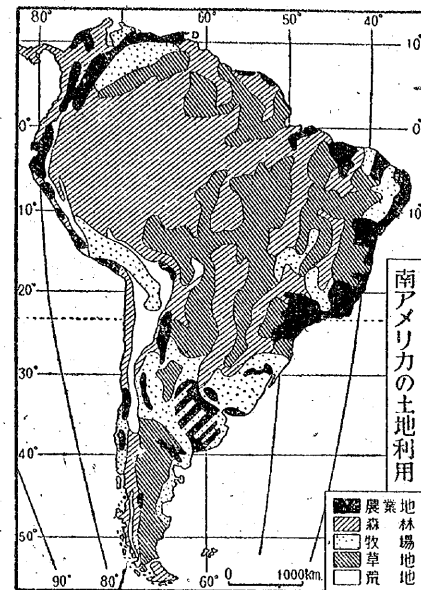
(チ) 北アメリカの農民の生活について、食物・作物・耕作法・衣服・家庭・レクリエーションなどのことを簡単にまとめた話をする。

2 南アメリカの進出

南アメリカ諸國のおいたち アルゼンチン・ブラジル・チリをはじめ、多くの國々に分かれている南アメリカ大陸は、最初はイスパニア及びポルトガルの植民地として出発した。まず、15世紀から16世紀にかけて、ポルトガル人は、この大陸の北東岸に到着して植民地を作り、さとうきびや綿の栽培を始めた。一方、イスパニア人は、おもに太平洋側の探検に従事して鉱山を開発し、廣い土地を領有した。けれども、兩國ともに、この植民地に対する態度を誤った。すなわち、この大陸の富は、みな本國の繁榮のために吸収され、植民地自身の幸福はほとんどかえりみられなかった。そこで、自由を求める住民の間には、独立の氣運が盛んとなつて、19世紀のはじめから、独立を宣言する國が次から次へと出て、ついに今日のような多くの國々が生まれたのである。南アメリカは、大小どんな國々に分かれているかを地図で調べてみよう。

北部アンデス國 カラカス (920 m)・ボゴタ (2611 m)・キト (2850 m)・ラパス (2693 m) などは、それぞれこの國の首府で、なぜこんな高い所に発達しているのであろうか。また、この辺の住民は、土地の高さに應じて、暑い地帯 (0—1000 m ぐらい)、温帯 (1000—2000 m ぐらい)、冷涼な地帯 (2000—3000 m ぐらい) などと分けて呼んでいるのは、どういうことを意味するものであろうか。メキシコの例から考えてみよう。メキシコの首府も 2273 m の高所に位している。

アマゾン川流域 水量の豊かなこと、流域面積の廣いことでは世界一のアマゾン川沿岸低地には、熱帯雨林が一面に繁茂して、その中は晝間でもうす暗い。そして、土地の開拓は、まだほとんど行われていない。森林中の野生のゴム樹を見つけて採集したゴムは、良質で有名



であつたが、ここのゴム樹を移植して始まつた南部アジアのゴム園の大量生産品に圧倒されてしまつた。それにつれて、ゴムの輸出港であつたバラヤマナオスも衰えた。

アマゾン川に沿う低地は割合に幅がせまくて、流域には台地が廣い面積をしめてサヴァンナとなつてゐる。

ここも大部分は未開拓であるが、ブラジル台地南部には大規模なコーヒ

ー園が開けて、世界の市場にその大量を供給し、ブラジルコーヒーの名まえは、世界に廣く聞えている。また、この地方は、綿の生産地としても、次第に重要性を帯びるようになって來た。

ラプラタ川流域 アルゼンチンの首府ブエノスアイレスは、南半球第一の大都市である。港に並ぶ幾十のエレヴェーター (穀物倉庫) からは、小麦・とうもろこしが盛んに船に積みこまれているし、羊毛市場の大倉庫には、周囲の各地から送られた羊毛が山のように積んである。郊外には、合衆國のシカゴに見られるような大規模な屠牛場^{とぎやうじやう}があつて、そこで処理された肉はヨーロッパへ送られる。ブエノスアイレスで見られるこのような風景は、ラプラタ川流域で営まれている産業の仕上げである。

ラプラタ川流域のパンパとよばれる草原は、土地も肥え、氣候も温

和である。ここでは、大規模な農業が行われ、牧畜もはなはだ盛んである。しかしながら、この地域がこのように繁栄するようになったのも極めて新しいことで、ことに第一次世界大戦以来、ここの生産品は世界市場に頭角を表わして来たものである。したがって、ここの農牧業には新開地の特色がいろいろな方面について認められるが、一方その農村社会には、今後改善を必要とする点が少なくない。農民の農業技術がまだあまり高くないこと、機械力利用の普及が十分ではないこと、アルゼンチンには不在地主が多く、かれらはおもに都市で生活を送っていることなどはその著しい点である。

課題 (イ) わが國にも、高原や山の上に発達している町があるか。それはどういう種類のものかを調べること。

(ロ) 戦前に、わが國では南アメリカから、どんな物資を輸入していたかを調べること。

VI 小麦と羊毛のオーストラリア

太平洋の地図を見よう。世界最大の廣さを持つこの大洋の中にも、たくさんの島々が散在している。そこで、島の多い部分では、日附變更線も 180° の經線からそれている。この日附變更線は、どういう必要から定められたものであるかを、各自で考えて組で討議してみよう。

太平洋の中でも、特に島が多い部分はオーストラリア附近で、この大陸の北から東へかけては、大小の島々が横たわる。これらには、海底山脈が海面上に頭を出したものが多く、また火山島やさんご島もあって、島の排列状態は簡単でない。ニューギニアやニュージーランドを除けば、大部分のものは面積が小さいが、廣い太平洋を連絡する交通・通信の上から、重要な意味を持っている。しかし、オーストラリア大陸をはじめとして、太平洋諸島は一般に開拓が新しいので、

その経済的價值もまだ十分に表われていない。

1 オーストラリアの発見と開拓

探検と植民 小さい時に読んだロビンソン＝クルーソー漂流記を思い出そう。あの熱帯無人島の小説は、どのようにして生まれたのであろうか。イギリス人は、17世紀末から南太平洋方面の航海や探検を始めたが、あの小説は、その時代に起った一つの出来事をもととして、書き上げられたものである。資料が得られたら、どんな出来事があったかを調べてみると、それに関連して当時のいろいろなおもしろい社会状態もわかることであろう。

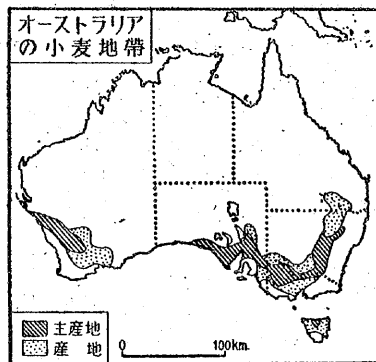
オーストラリア大陸のことは、このころからイギリス人に紹介されたし、それ以前にも、イスパニア人やポルトガル人によって、その存在が知られていた。けれども、それまでにわかった部分は、おもに大陸の西岸地方であつた。それで、その報告は、ロビンソン＝クルーソーの小説のような、めずらしい土地の物語として、人々に迎えられただけで、どこの國でも、植民などは思いもよらなかった。これはなぜであらうか。

オーストラリアの地図を見よう。この大陸の西部一帯は高原状をなし、雨量は少なくて不毛の地が多く、内部には大きなさばくさえも横たわっている。したがって、この西岸地方の自然及び当時の原住民の社会状態からは、この大陸の將來についての希望が持てなかったわけである。けれども、実は大陸南東部に当たって、氣候もよく、土地も肥えた地方がある。ここが1770年、イギリスの学術探検家ジェームス＝クックによって発見されてから、はじめてオーストラリアに対するイギリス人の認識が改まった。

1788年1月、一團の輸送船が、オーストラリア南東部の自然の入江であるジャクソン湾に到着し、人々は現在のシドニーの地点に上陸

した。これがイギリス最初の移民船であって、その後もこのような船が時々入港した。そして、当時送られて来た人々は、おもに罪人であった。すなわち、この新しい土地は、イギリスの流刑植民地として出発したのである。そして、その後だんだんと自由移民も来るようになった。

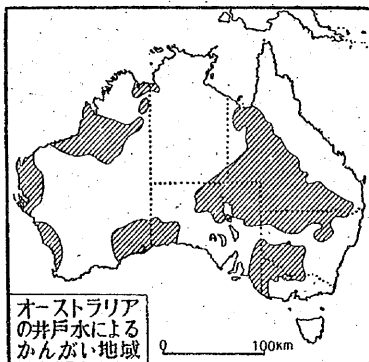
開拓 この新天地に渡来した人たちは、たがいに力を合わせて土地



の開拓を始めた。そして、東部山地をつらぬく鉄道が通じてからは、内部にも小麦畑や牧場が増加した。特に 1851 年以後、金鉱が方々に発見されてからは、ますます多数の自由移民が渡来し、また、鉄道の開通とともに、内部の肥えた土地の開拓が進んだ。そして、生産物は、新しく発

達した多くの港を通じて、世界の市場と結びつくようになった。オーストラリアの鉄道の発達と、港の分布状態を、地図で調べてみよう。

現在はオーストラリア連邦を組織して、イギリスの自治領となっているこの大陸の総人口は、700 万余にすぎない。けれども、マルレー＝ダーリング盆地を中心とした土地の開拓が進み、小麦の生産が近年著しく増加した。そして大量の小麦を、イギリス本國を



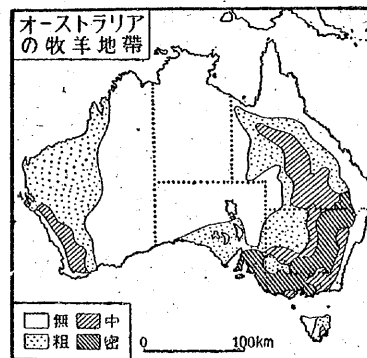
はじめ、アジア各地へ供給する。

農業は、オーストラリアにとって重要な意義を持つが、大陸全体から見れば、農業に恵まれた気候を持つ土地の面積は案外にせまい。そこで土地は肥えているが水に不足する地方では、掘抜井戸によってかんがいを行って、自然の欠点を補っている。井戸には深さ 1000 m 以上に達するものもあって、この地方のかんがいの一特色をなしている。

牧畜 われわれが動物園へ行って見ると、オーストラリア本来の動物は、旧大陸のものとはすいぶん違っていることに気がつくであろう。羊や牛も、以前にはこの大陸に見られなかったものである。そこへ第一回の移民船が、羊 29 頭、牛 6 頭を運んで来たのであった。現在この大陸では、羊 11000 万頭、牛 1300 万頭

の多きを数え、羊毛の産額は世界一である。わずかの間にこんな世界的牧畜地になろうとは、だれが予想したことであろうか。

諸國の羊毛産額 (單位千トン, 1938)	
中 國	50.0
イ ン ド	45.0
オーストラリア	446.8
ニュージーランド	148.6
合 衆 國	207.6
アルゼンチン	178.7
ウルグワイ	51.7
イ 英 利 斯	50.3
ソ 連	137.4
南 ア フ リ カ	119.7
世 界 計	1811.0



重点をおきかえることができるから、企業としては、安全性が多いこ

とになる。もっとも、それだけ小麦畑の位置や面積が、年によって変動するわけである。そしてこれがまた、この新開地の特色となっている。

課題 (イ) オーストラリアの州の境が、わが国の縣の境と、どのように違うかを地図で調べ、その原因を考えること。

(ロ) オーストラリアの人口の分布状態を調べること。

(ハ) オーストラリアでは、有用な土地がどのように分布しているかを地図で調べること。

2 ニュージーランドとハワイの土地利用

ニュージーランド 長ぐつをさかさにしたような形をしているこのイギリスの自治領は、中央をクック海峡が横ぎって、北島と南島とに分かれる。この島の自然、特に地勢には、わが国と似た点が少なくないが、産業はかなり違っている。年中西風が多いので、風下の東岸地方は雨量が少なく、ここは小麦の産が豊かである。しかしこの島の産業の最も大きな特色は牧畜で、オーストラリアと同じく羊と牛が多数飼われている。そしてその分布も、おもに雨量の影響をうけて、雨の少ない地方に牧羊場が広く発達している。首府ウェリントン羊毛の市場であるが、近年は酪農も盛んになって、その製品は、羊毛と共に重要な輸出品となっている。

ハワイ諸島 太平洋のほぼ中央に位するこの島々は、火山島から成っていて、海拔 4000 m 以上の大きな火山が幾つも数えられる。どんな火山が有名か、地図で調べてみよう。

日本は火山国であるから、われわれにとっては火山は珍しくないようであるが、ハワイの火山は、わが国のものとは、だいぶそのようすが違っている。全体が極めてゆるやかな傾斜を持っているから、その斜面は広く耕地として利用することができる。この附近の海は、6000

メートルぐらいの深さに達するから、もし海底からこの火山島が見上げられたら、どんなにか雄大な姿を示すことであろう。

この島が、世界に正しく紹介されたのも、ジェームス・クックの功績による。かれは、1768 年以來、前後 3 回、12 年間にわたって、太平洋の学術探検に従事したが、ついにこの島で命を失った。

太平洋上に位するこの諸島は、その緯度から想像されるよりも、氣候は溫和である。土地はよく耕されて、さとうきびとパイナップルの農園が廣く展開し、共に特色のある輸出品のもとをなしている。またこの島々は太平洋の交通上からも重要な位置をしめている。

課題 (イ) ニュージーランドの自然で、わが国と似ている点をあげること。

(ロ) 資料が得られたら、ジェームス・クックの太平洋の探検について調べること。

(ハ) 気温・雨量表から、ハワイの氣候の特色を調べること。

しめくくりの課題

(イ) 世界（あるいは各州）の掛け地図によって、おもな山脈・高原・河川・平野・都市などを指し示すこと。

(ロ) 世界の掛け地図によって、廣い熱帯雨林、針葉樹林帯、主要な季節風帯、大きな草原、さばくなどを指し示すこと。

(ハ) 郷土が自然から恵まれていると考えられる、あらゆる条件の表を作ること。またその反対の条件の表も作ること。

(ニ) 世界各州の大きな略図を描く。またその州の最もたいせつな農畜産物の名まえを別々の紙片に書く。生徒はめいめいその紙片を取って、それをその地図上の適当な場所、すなわちその産物を最もたくさん出す地方にピンやのりで付けるゲームをすること。

(ホ) 世界の國々のおもな農畜産物を示す絵図を描くこと。

(へ) 世界の國々の農村生活を示す絵を集めること。そしてそれを展覧すること。

(ト) 野球の場合のように、学級で2組のチームを作る。そして第1チームは、世界の國々、あるいはある地域の名まえをよぶ。これに対して、第2チームの人々は、その土地の最もたいせつな物産を答える。正しく答えられた場合を1点として、このゲームの得点表を作る。ゲームの後半では、第2チームが、國々や地域の名まえを呼び、第1チームが物産を答える。

(チ) 世界のいろいろな農業國について、短いなぞの文を作る。生徒は自分の作ったなぞを読んで、これはどこの國のことを級友に当てさせること。

附 録 世 界 の 地 図

地球表面の種々な自然のありさまや、これに関連して営まれている人類の生活状態を正しく理解するためには、どうしても地図が必要である。地図はまことに便利なものである。地表に見られるさまざまなことを、わずかな紙面の上に、わかりやすく示してくれる。

われわれは、これまでの学習に際して、すでに多くの地図を用いて来た。ところが、その場合、世界の形は、地図によって、いろいろと違って表わされていることに気がついたであろう。なぜこのようなことが起るのであろうか。

〔地球儀と地図〕 まず、地球儀によって世界の大陸のありさまをながめよう。陸と海とでは、どちらが廣いであろうか。この比を正確に計算すると $1:2.42$ となるから、地球表面では、海がずいぶん大きい面積をしめていることがわかる。ところで大陸の組み合わせぐあいは極めて複雑であるが、さしあたり次のような諸問題について調べてみよう。

1 各大陸の形には、それぞれどんな特色があるか。また各大陸を

大きさの順に並べれば、どんな表ができるか。

2 最小の大陸オーストラリアと、最大の島グリーンランドとの面積の比は、どれくらいか。

3 サンフランシスコは、横浜から見て、どんな方位に当たるか。また、両者の最短距離はどれくらいで、どんな道筋を通るか。

これらのことは、地球儀によってよく調べれば、だれにも答えられる。ところが、世界地図からこれらの問題を解くと、地図の種類によってその結果がずいぶん違うことがある。これはなぜであろうか。

地図投影 地球面を平面に書きかえて、しかも距離・方位・面積・形などの関係が、みな正しく表われるようにすることは望めない。そこで地図はいろいろな規約によって描かれており、その規約の相違によって、経線・緯線の表われかたが違って来る。すなわち、地図投影法の種類によって、さまざまな長所や短所を持った地図ができることになる。われわれが郷土調査のときに用いるような大きい縮尺の地図では、投影の規約から生まれる欠点も、実用上たいして問題にならないことが多い。しかし、大陸図や世界図のような小縮尺のものになると、どんな投影法で描くかによって、結果がいろいろと違って来る。特に世界図では、その違いがはなはだしいが、世界図として、その取り扱いに最も注意を要するのは、メルカトル図である。

メルカトル図法 世界地図として多く使われているメルカトル図は、世界がく形(矩形)の紙面にうまくおさまる点で、たしかに便利である。しかし、これにはどんな欠点があって、どんな使用目的に不適當であるかを各自で考えて、組で討議することにしよう。

この図は、別名「海図々法」とよばれるように、海図は多くこの投影法で描かれている。メルカトル図法の理論をよく理解するためには、程度の高い数学の知識が必要である。しかし、要するにこの図は航海用として他の図には見られない長所を持っている。まず、この図

の上で、出発地と目的地とを直線で結び、その線が経線（子午線）となす角をはかって、船の方向を定める。そして、その後は、常にこの方向を保って進みさえすれば、目的地に達するように考案されているのである。この道筋は等角航路とよばれるが、これは二点間の最短航路ではないことに注意しなければならない。この図法を考案したメルカトル（1512—1594）は、オランダの航海者であることから、この図は、もともと航海用に作られたものであることがわかるであろう。

起伏の表わし方 地図の取り扱いについて問題になるのは、投影法だけではない。われわれの住む陸地は、高低の差がはげしい。世界最高のエヴェレスト山は 8822 m の高さを示すし、最低の土地は死海の低地で、その水面は海面下 394 m に達している。この両極端の間にある陸地の高さは、地方によって実にまちまちである。このありさまを、地図ではどのように表わしたらよいであろうか。

5 万分の 1 や、20 万分の 1 のように縮尺の大きい地図では、等高線によるのが普通であるし、これが最も正確である。しかし、縮尺の小さい地図の場合は、等高線法にたよることが最上とはいえない。高さを色分けにすることや、ケバ法を利用することなどもよいし、そのほかいろいろな方法が考案されている。したがって、小縮尺の地図での起伏の表わし方は、地図製作者によってまちまちである。

われわれには海の底は見えない。しかし、もし地球表面から海水がなくなったとしたら、どんな形の地表が現われて来るであろうか。海底の起伏のありさまは、調査が進むにしたがって、だんだんはつきりして来た。海底、特に大洋の底は、陸地表面とちがって、ずいぶん単調である。この単調を破るものは海こう（海溝：非常に深い部分が細長いみぞのようになっているところ）であって、そのおもなものは太平洋の西側に横たわる。そして、世界最深部は、フィリピン海こう中のエムデン海えん（海淵）で 10793 m の深さを持っている。

単調な海底の起伏は、小縮尺の地図でも等深線でよく表わすことができる。海図には、一般に、深さの数字が、測深点ごとに記入されているだけであるから、ただながめただけでは、海底の一般状況が明らかではない。航海用にはこの方が便利だからであるが、その数字をもととして等深線をひくことができる。

課題（イ） 横浜からサンフランシスコへ行こうとするとき、その間の最短距離を行く大圏航路による場合と、等角航路による場合とでは、道筋がどのように違うかを地球儀によって調べる。また、この大圏航路がメルカトル図には、どのように表わされるかについても調べる。

（ロ） いろいろな世界地図（その二）の世界人口密度図は、メルカトル図法によっているが、これが果たして適当な使用法かどうかについて討議すること。

（ハ） 地図にはさまざまな投影法のものがあるが、いろいろな世界地図（その一、その二）にかかげてある例には、それぞれどんな長所・短所があるかについて討議すること。

（ニ） 学校の掛け図や自分の地図では、起伏がどんな方法で表わされているかを調べる。

（ホ） 気温や雨量の分布を表わすには、一般にどんな方法が用いられているかを調べる。

（ヘ） 手近にある地図によって、いろいろなものの分布状態が、どんな方法によって表わされているかを調べる。

（ト） 海図を手に入れ、その深さの表わし方を調べ、また等深線を書き入れる。

K2503-1-7

社 會 科 7

世界諸地域の自然と農牧生活

Approved by Ministry of Education

(Date Sep.4, 1947)

昭和二十二年九月四日 印刷
昭和二十二年九月十五日 發行
(昭和二十二年九月四日 文部省検査済)

著作権所有

著作兼發行者

文

部

省

東京都北区堀船町一丁目八五七番地
兼印刷發行 東京書籍株式會社

代表者 井上源之丞

東京都北区堀船町一丁目八五七番地
印刷所 東京書籍株式會社

東京都北区堀船町一丁目八五七番地
發行所 東京書籍株式會社



